ライオン誌(毎月20日発行)第53巻第10号 2011年3月20日発行 昭和33年12月19日付第3種郵便物認可

# LION

IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International

WWW.THELION-MAG.JP APRIL 2011 4

ライオンズクラブ国際財団

# LCIF

## 平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震

# 被災された皆様へ 謹んでお見舞い申し上げます

東北地方太平洋沖地震により被害を受けられました皆様に

謹んでお見舞い申し上げますと共に

犠牲になられた方々のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます

皆様のご無事と、一日も早い復興を祈念致します

ライオン誌日本語版委員会

LION MAGAZINE IN JAPAN
April 2011, Vol.53 No.10

We Serve CONTENTS

■2011年4月号
表紙
鳥取県倉吉市
打吹公園·枝垂れ桜
写真／鈴木秀晃



本誌は環境に配慮したFSC™認証紙を使用しています。

## MESSAGE FROM THE PRESIDENT

# 可能な限りのものを与えよう

何よりもまず最初に、年末年始の休暇中にカード、手紙、Eメールを送ってくださった皆さんにお礼を申し上げます。私たち夫婦は旅をしていることが多いため、やっと郵便物を開くことが出来ました。ごあいさつがまだ届いていないかもしれませんが、ジュディともども皆さんのお便りとご厚意に心から感謝しています。

私たちは最近、ライオンズが設立した韓国大邱市の大邱リハビリテーション・センターを訪れる機会に恵まれました。このセンターは1984年に韓国初の身体障害者施設として開設され、現在では毎年28万3千人余りの人々が利用しています。身体的・精神的に特別な問題を抱えた人々が仲間と過ごせるこの施設は、彼らにとってかけがえのない場所です。この施設に対する地元ライオンズの支援は、多くの児童や成人が他者に依存することなく、より生産的な生活を送ることを可能にしています。

私たちの奉仕の効果は、大邱センターのように常に目に見えるわけではありません。しかし、あらゆる思いやりの行為には世界を変える力があります。東洋のある哲学者は、「相手がどれほど困っているかを知ることは出来ないのだから、可能な限りのものを与えよう」と書いています。この助言はライオンズの奉仕理念の根幹であり、「希望の光」になることを目指す今年の国際会長テーマの核心でもあります。

かつてないほど奉仕に打ち込み、共にグローバル奉仕実施キャンペーンにご参加くださいますよう、ライオンズの皆さんにもう一度お願い致します。特定の四つの分野に光を照らすこのキャンペーンは、環境事業を推進する4月の奉仕活動によって幕を閉じます。前回までの取り組みに参加出来なかった皆さんは、今年度が終わる前に世界に変化をもたらすべく、この機会を逃してはなりません。

2010-11年度国際会長
シド・L・スクラッグスⅢ世

Lions Clubs International
FOUNDATION

THEME

# LCIF ライオンズクラブ国際財団

人々の健康を促進し、青少年の可能性を伸ばし、障害を持つ人たちを力づけ、災害の犠牲者を支援するLCIF。1月に行われたLCIFスタディ・ツアーで視察したラオスでの二つの交付金事業をリポートする他、昨年1月に起こった大地震で甚大な被害を受けたハイチを始め、災害被災地における復興支援の成果を紹介する。

## ■第7回LCIFスタディ・ツアー

# 母なる川メコンに寄り添う 安らぎの国ラオスを訪ねて

日本のライオンズを対象に、海外のLCIF交付金事業を視察するスタディ・ツアーが、1月16日から22日まで実施され、日本各地から33人の会員らが参加した。2004年にインド西部地震の復興状況を視察する、最初のツアーが実施されて以来7回目となった今回の訪問国は、インドシナ半島の内陸国ラオス。一行は首都ビエンチャンの眼科センターで視力ファースト事業を、またルアンパバーン県ナムバック郡の二つの村落で、鹿児島県・川内ライオンズ(クラブ)が、一般援助交付金を活用して建設した小学校を視察した。

取材/鈴木秀晃・河村智子

## 山岳国家における眼科サービスのモデル作りを支援する視力ファースト

ラオスは中国、ベトナム、ミャンマー、カンボジア、タイの5カ国と国境を接し、九州とほぼ同じ広さの国土に約630万人が暮らしている。2009年のラオスのGDPは55億(ドル)で、鳥取県のほぼ4分の1の経済規模。国連の基準では世界の最貧国(後発開発途上国)に分類されている。

首都ビエンチャンは、メコン川沿いに作られたラオス最大の都市で、他の県とは違う行政特別市となっている。街はフランス植民地時代の建物と数多くの仏教寺院が混在し、東西文化の融合が見られる。

ツアーの一行が最初に向かったのは、そんなビエンチャンの中心部から8(キロ)ほど離れた所にあるビエンチャン眼科センターだった。1990年に、日本の援助(10万(ドル))を受け設立されたもので、その後、2005年にはドイツのNGOの支援で約500平方(メートル)の新病棟が増設された。センターには、検査・処置室、手術室、入院設備の他、視覚障害児の自立センターが併設されている。

同センターが日本により設立されたのは、現在、視力ファースト技術顧問を務める紺山和一博士の働きかけによるものだった。紺山博士は80年代半ばに世界保健機関(WHO)の技官として、ラオスでの眼科医療にかかわるようになった。当時は保健サービスに必要な設備など何もない状態だったそうだ。ラオスの眼科サービスはそこから一つひとつ積み上げてきたもので、日本の資金援助で始まり、ここ数年はライオンズの支援を受け、山岳国家の眼

科サービスのモデル作りとして、次のような活動が進められている。
•3年間をかけて眼科の専門医を育成（タイで研修）
•医師1人に眼科中間職種（助手）2人、一般スタッフ4人のアイケア・チーム態勢
•眼科中間職種は、視力ファースト交付金によりタイ・コラート公衆衛生研究所で実施されているインドシナ諸国看護師留学制度で育成

紺山博士によると、発展途上国において眼科の医師が十分なサービスを提供するには、眼科中間職種と一般スタッフの働きが不可欠で、医師だけではなく、中間職種を養成しなければならない。そのため現在、視力ファーストによって実施されているコラートのプログラムは、非常に重要な役割を果たしているのだという。

こうした考え方に基づいて、ビエンチャン眼科センターには5人の医師の他、助手が8人おり、月に約2千人の患者を診療している。また、一行が訪問した時には、ビエンチャン医科大学眼科学部の研修生ら十数人が、住民の視力検査を行っていた。

ラオスにはこれまで、四つの視力ファースト事業に総額55万ドルが交付されている。

❶現在、視力ファースト交付金によって、ビエンチャン眼科センターを拠点に無料の白内障手術が実施されている

❷視力ファーストによる白内障手術は、ラオスでは1件10ドルで実施されているが、その1割に当たる1ドルは郊外や辺地から来る患者の搬送に使われる

❸ビエンチャン中心部にあるサテライト・クリニック。眼科医1人と助手によって外来診察が行われている

- 01年、チャンパサック県に眼科病院建設（15万5553ドル）
- 05年、白内障手術の提供（16万7200ドル／3年間で7500件実施）
- 06年、ビエンチャン・サテライト・クリニックの改修（6万千ドル）
- 10年、白内障手術の提供（16万ドル／現在、月平均120件を実施）

このうち、06年にビエンチャン中心部の中古建物を改修して作られたサテライト・クリニックは、ビエンチャン眼科センターの出先機関となっている。センターは市街地から離れており、サテライトが出来たおかげで、市民は容易に診察が受けられるようになった。

一方、センター側も郊外や辺地から来る患者の受け入れや白内障手術の件数を増やすことが出来るようになった。

現在は10年に承認された視力ファースト交付金によって、無料の白内障手術が実施されている。ラオスでの白内障手術には、まず住民教育が必要になる。多くの人々は、白内障の症状が手術によって改善されるものだという認識がない。そのため白内障患者を探し出し、手術で見えるようになることを説明して連れて来なくてはならない。

視力ファーストによる白内障手術は、ラオスでは1件10ドルという低いコストで行われている。内訳は手術・入院費用に7ドル、スタッフの教育に2ドル、患者の交通費が1ドルで、スタッフの教育とは、患者を見つけ出して手術を受けさせる住民教育の要員を育成するもの。

視察当日には、前日に手術を受けた24人が術後の処置を待っていた。センターでの手術そのものは、設備、技術面とも日本と大きな差はない。異なるのは手術後に必ず入院させる点。手術が終わったところで帰宅させると、戻ってこない患者がいるため、入院させて経過を確認。手術後の生活指導も行ってから帰宅させている。

ビエンチャン眼科センターには、地方からも多くの患者が訪れる。が、バスターミナルからは12～13キロ離れており、そこからの交通手段がなく困っていた。そこで2009年に愛知県・名古屋ウエスト ライオンズクラブが、タイのバンコク・コスモポリタン ライオンズクラブをパートナーとして、LCIFの国際援助交付金1万ドルを受け、中古バス2台を寄贈した。バスは現在、眼科センターとバスターミナルの間を往復し、地方からバスで訪れた患者の輸送に使われている。

**ラオス・ビエンチャンに新クラブ誕生**

ラオスには2007年に一度クラブが結成されたが、1年程で解散となり、ライオンズ国とは名ばかりの空白状態が続いていた。そこで今年度に入り、インドシナ半島の視力ファースト事業を統括するタイのソムサクディ・ロヴィス元国際理事が、ビエンチャン眼科センターの医師らを中心としたエクステンションに乗り出し、このほどタイ東北部のウドンタニ、ウドンタニ・シープラチャ両クラブのスポンサーでビエンチャン・ホスト ライオンズクラブが誕生。スタディ・ツアーの視察が行われた日に、日本の視察団やスポンサー・クラブが見守る中、ロヴィス元理事（右から4人目）から初代会長のビトゥーン・ビソナヴォン医師（左から3人目）にチャーターが手渡された。

## 校舎の絶対数が不足し、質的にも劣悪な環境にあるラオスの子どもたちに教育の機会を

二つ目の訪問地ルアンパバーン県はラオスの北部にある。その中心ルアンパバーンは旧ランサン王国の王都で、75年の共産主義革命までは王宮が置かれていた。首都ビエンチャンからメコン川を約400キロ上流にさかのぼったカン川との合流点にあり、二つの川に挟まれた半島部分には旧王宮や寺院など数多くの歴史的建造物が残る。95年には、その旧市街地が「ルアンパバーンの町」として世界遺産に登録された。

スタディ・ツアーの訪問先はルアンパバーンから更に約110キロほど北へ行ったナムバック郡にある二つの村。鹿児島県・川内ライオンズクラブ（内田耕也会長／93人）が、川内第一、東郷さつま両クラブの協力を得、一般援助交付金2万2008ドルを受けて、小学校の校舎を1棟ずつ建設した。

校舎は約160平方メートルの平屋建てで、3教室と職員室がある。総事業費は約450万円。当初、建設費には整地にかかる費用も含めていたが、整地作業は住民自らが行ったため、浮いた費用

で、予定していたトタン屋根から瓦屋根に変更し、天井も作った。それによって室内の暑さが違ってくるという。

内田会長によると、今回の事業はラオスへの学校保健援助を行っている地元薩摩川内市のNPO「じゃっど」との接点がきっかけだったという。その後、ラオスで教育支援を行う兵庫県のNPO「DEFC」の沢田誠二代表に相談し、建設候補地を挙げてもらった。たくさんある候補地の中から、日本から訪問する際に交通の便が悪くない所を条件に検討し、ポンサワーン村とポンサワン村を選んだ。

ポンサワーン村は12年ほど前に出来た新しい村。全体で70戸ほどの家族が住み、人口は約550人。ラオス政府は幹線道路に沿って電線を配し、山で暮らしていた人たちを道路沿いに移転させる政策を取ってきた。ポンサワーン村も、そうした政策によって三つの郡から移住してきた人々で作られた。

ラオスは多民族国家で、公式な民族分類ではラオ・ルム（平野部で稲作を営む低地ラオ族）、ラオ・トン（山腹で焼畑と森の恵みによって暮らす中地ラオ族）、ラオ・スン（山頂部で焼畑と家畜の飼育で暮らす高地ラオ族）の3グループに分けられる。これらは民族ごとに集落を形成し、標高によって住み分けをしていた。が、移住政策によって集落の形態が崩れ、ポンサワーン村の場合はラオ・スンであるモン族が中心だが、ラオ・トンのカム族も混在することになった。

ラオ・スンとラオ・トンでは言葉も違うので、実は住民同士でも会話が成り立たないことがあるという。そのため、学校での国語教育は非常に重要で、公用語であるラオス語を学ぶことが、村の融和にもつながる。

ラオスでは革命後、初等教育5年、前期中等教育3年、後期中等教育3年という学校制度を採用。それぞれ小学校、前期中学校、後期中学校で教育が行われるが、後期中学校は県、前期中学校は郡、小学校は村が校舎を用意することになっている。

ポンサワン村小学校の旧校舎

そうは言っても、合併政策で出来上がった急造の村に、小学校を建てる力はない。これまでは少し離れたよその村の学校まで、歩いて通っていたという。が、今回、教室が三つ出来たことで、1年生（38人）、それに幼稚部の20人は自分の村で学べるようになった。

もう一つのポンサワン村は約240戸の家族が住み、家も国道沿いにあって、ポンサワーン村よりは豊かに見えた。そのせいか既に学校もあったが、教室が足りず、5年生は他の村まで通っていた。また、4年生の教室は村人手作りの粗末な小屋だった。

それが今回の校舎建設で、全校生徒450人が、同じ学校に通えることになった。最上級生のソムサック君は、

「前は古い建物だったので、新しい校舎が出来てとてもうれしいです。これからは、もっともっと勉強したい」

と、話してくれた。その笑顔を見ながら内田会長は、

「整地には腰の曲がったお年寄りから子どもまで、村人が総出で参加し、他の建設作業も可能な限り住民が協力したそうです。その姿を子どもたちが見て、『一生懸命勉強しよう』という気持ちになってくれたと思います」

と、話していた。

ポンサワーン村の住宅

# LCIF: 災害に見舞われた地域社会を再建

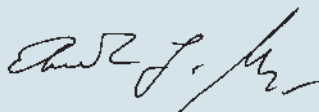
ライオンズクラブ国際財団（LCIF）は1968年の創設以来、災害に見舞われた地域社会の支援に力を尽くしている。ライオンズには、40年にわたって被災地に緊急援助と長期的な復興活動を提供してきた幅広い経験がある。ライオンズが主導する緊急援助活動には、世界中の会員から毎年寄せられる献金によって直ちに資金が提供される。ライオンズの指導者とLCIFの職員は、地元のライオンズと協力して当面のニーズを評価し、長期復興計画を策定する。LCIFと世界中のライオンズの取り組みは、被災した地域社会に将来への希望を取り戻させている。

## ハイチの人々に希望を

レナンデ・ピエール・ルイは、2010年1月12日の午後を昨日のことのように覚えている。その日を境に、彼女、家族、国家にとってすべてが変わってしまった。地震は午後5時直前にハイチを襲い、ポルトープランスの何百万人もの人々は命懸けで逃げ惑った。家々、学校、ホテルが目の前で崩れ去り、彼らに出来ることは最善の結果に

ライオンズの皆さんへ

重大な世界的事件が起きた時のことを思い出すと、誰もが気持ちの高まりを感じるものです。それは初の月面歩行などの画期的事件の場合もあれば、敬愛する指導者の死のように悲劇的な出来事であるかもしれません。

ハイチのレナンデや中国のナンは、地震に襲われた時に自分がどこにいて、何をしていたかを鮮明過ぎるほど覚えています。以下のページには、悲劇の後で生活を立て直した彼らの経験が語られています。ライオンズがそれをどのように支援したか、皆さんに知って頂ければ幸いです。

ハイチ大地震から今年1月で1年が過ぎました。ライオンズが救援活動を続けているのはこの場所だけに留まりません。アメリカ・ニューオーリンズ郊外のシャルメット高校の生徒から、パキスタンで住居を必要としている家族に至るまで、私たちは力を合わせて何千人もの人々を支援しています。

ライオンズの皆さん、被災地の復興と再建における自らの実績を誇りに思ってください。どこで災害が生じようと、その近くには必ずライオンズが存在し、対応の準備を整えています。私たちは誰よりも早く支援に駆け付け、最後までその場を去りません。

こうした活動の多くは、世界中の仲間の惜しみない支援がなければ不可能です。個々の会員の献金は、LCIFを通して最も苦しんでいる人々のために使われます。家を持ちたいというレナンデの夢をかなえてくださったことに感謝します。皆さんによって、思いやりの橋が架けられているのです！

この記事を読んだ皆さんは、ライオンズが共に達成した成果に誇りを抱くことになるでしょう。次に災害が起きたとしても、そこには必ずLCIFの姿があるはずです。

心を込めて

LCIF理事長・前国際会長
エバハルト・J・ヴィルフス

希望をかけることだけだった。

破壊されたこの国では今日、希望は見失われがちになっている。歴史的な大地震の前にも貧困と無秩序が蔓延していたが、日々の生活は現在ますます困窮を極めている。人々は生活に必要な食料、水、住居などを求めて苦しみ、1年が過ぎても家を失ったままの人々は100万人を超えている。

レナンデの家も地震で全壊し、住むことが出来なくなってしまった。

しかし、ライオンズとLCIFがハイチの生活と社会の再建を約束したことで、レナンデとその家族は将来に希望を持ち始めている。彼らは最近、住宅事業の一環として新築された家に引っ越した。この事業では、現在ライオンズのテント村に暮らしている600世帯に仮設住宅が提供される。

ポルトープランス・デルマ ライオンズ（クラブ）の（ライオン）ピエール・リチャード・デュシュマンによれば、各世帯が被災前に住んでいた場所に耐震・耐ハリケーン住宅が建設される予定で、レナンデと夫、6人の子どもたちはその最初の受益者である。

これらの住宅を提供するため、LCIFはドイツの非政府組織（NGO）HELPと協力している。HELPには人道援助を提供してきた30年の歴史

地震後、家族と共にライオンズのテント村で暮らしてきたレナンデ

があり、世界の20カ国近くでニーズに基づく地域社会支援を行っている。ハイチでは、この組織によって被災者の住宅再建が進められている。

ＬＣＩＦハイチ地震救援基金には世界中のライオンズから総額６００万ドル余りの献金が寄せられ、この住宅事業はそれが使われる最初の大規模事業となった。ＬＣＩＦが１４０万ドル、ドイツのライオンズが69万６２５０ドル、ＨＥＬＰが運営費を負担し、合わせて２００万ドル以上が提供される予定である。

ライオンズとＨＥＬＰは各キャンプを調査し、住宅を最も必要としている人々を探して受益者を決めた。各戸には完成と同時に基本的な家具が支給され、地域にもトイレその他の不可欠な設備が提供される。

仮設住宅の必要性は大きいが、現時点ではその建設を支援するＮＧＯの数は限られている。ハイチでこれまでに建設された仮設住宅は５千戸に留まっているため、今回の６００戸によって、その数は大きく増えることになる。しかし、更に22万５千戸近くが必要とされており、最終目標はライオンズのテントで暮らしている人々をすべて仮設住宅に移すことである。

ライオンズとＬＣＩＦは被災後のハイチで強い存在感を示してきた。地震を受けて５万ドルの大災害援助金が交付され、資金は水ボトル、医薬品、食料などの救援物資の購入に役立てられた。

ポルトープランス近郊のデルマ、ブランシャール、カルフールフィーユの三つのテント村は家を失った人々を保護するために設置され、現在も２５００人近くが暮らしている。テント村はある種の地域社会を形成し、そこに住む人々に必需品を提供している。また、それぞれ物品を売買する市場、礼拝所、医療を提供する診療所も備わっている。

ＬＣＩＦはハイチの再建を目指して献身し続けている。事業は長期にわたって進められるが、ライオンズの使命

の中心は被災者に希望を与えることである。他の被災地と同様、ライオンズは住宅と病院を再建し、眼科医療制度を立て直し、今回の災害で障害を負った人々を含めて障害者を支援したいと考えている。

「ハイチ・ライオンズ救援復興委員会は、国内の全ライオンズクラブやLCIFと協力し、会員の活動とLCIFの資金を大きく拡大する戦略的アプローチを計画しています」

とライオネル・デュシュマンは語る。

レナンデとその家族のように、希望は人々をより良い明日へと向かわせる。ハイチの人々に将来への希望を取り戻させるため、LCIFは今も力を尽くして取り組んでいる。

## 基本情報

- LCIFの初の交付金は、1973年にアメリカ・サウスダコタ州の洪水救援活動に対して提供された
- 41年間に交付された緊急援助金は3千件総額2,500万ドル余りに達している
- LCIFでは毎年200万ドル近くの緊急援助金を交付している
- 資金は食料、水、応急処置など、被災地の緊急のニーズを満たすために使われる
- 献金の100%が直接被災者のために役立てられる
- 事業は被災地域のライオンズによって実施される
- 集まった災害基金の例：
  - 南アジアの津波災害に対して1,500万ドル
  - 4州のハリケーン・カトリーナ事業に対して500万ドル
  - 中国大地震に対して300万ドル
  - ハイチ大地震に対して600万ドル

仮設住宅に入居したレナンデは今、家族と共に前を見て進もうと希望を抱いている

## ハリケーン・カトリーナで被災した学校を強化

5年少し前、アメリカ・ルイジアナ州のシャルメット高校の生徒はハリケーン・カトリーナの傷跡と向き合っていた。ハリケーンはニューオーリンズの東に位置するシャルメットの町を破壊し、その大半は15フィートにも達する洪水に襲われた。避難の途中で命を落とした住民も多い。生徒たちには通う学校はおろか、家と呼べる場所さえなかった。

今日、その光景は大きく変化している。セントバーナード郡学区のシャルメット高校では現在、生徒たちに総合教育と校内医療を提供している。ライオンズはLCIFによる総額117万ドル余りの資金援助によって、学校関係者と緊密に協力して診療所と図書館の開設を実現させた。

診療所は2009・10学年度の初めに開かれた。医師1人と看護師3人の常勤職員が週に5日勤務し、1日に50〜60人の生徒が受診している。学校ではルイジアナ州立大学を通して精神医療も提供され、また歯科治療も受けられる。健康保険を持たない生徒の診療は無料で行われ、彼らを保険に加入させるプログラムも実施されている。

「診療所の開設によって学校は大きく改善されました」

と、セントバーナード郡学区のベバリー・ローラソン教育長補佐は語る。

「大半が十分なサービスを受けていない生徒たちに、総合医療が提供されるようになったのです」

診療所の開設は学業にも効果を及ぼし、生徒の成績と出席率の双方が向上した。また、診療所では糖尿病やぜんそくに対するプログラムを開発することで、慢性疾患の生徒も積極的に支援している。今学年度には図書館も開設される予定である。

世界中のライオンズは500万ドル余りの資金を集めることで、ハリケーン・カトリーナ以降の救援活動を支援した。LCIFは20万ドルの大災害援助金に加えて、14件総額14万ドルの緊急援助金を承認した。この資金は、被災した4州のライオンズが被害者に食料、水、医薬品の引換券を提供するために役立てられた。

## 中国大地震で崩壊した村を再建

ナン・チョン・チェンは、中国四川省のPeng Huaライオンズ村で新居生活を楽しんでいる。彼女の家族は、2年余り前に中国中央部を襲った大地震ですべてを失った。彼らは政府が仮設住宅を設置するまでライオンズのテントで暮らしていたが、2008年10月に新しい我が家に引っ越した。現在、LCIFとライオンズの努力によって村の再建が進められ、彼女はその恩恵を受けた425人余りの一人である。合計162戸の住宅が建設された。

「ライオンズがこの地にもたらした変化を、私は目の当たりにすることが出来ました」

と、復興事業組織委員会を主導したウィンクン・タム国際第1副会長は述べている。

２００８年５月に起きた地震は被災地の村々を全壊させた。世界中のライオンズがＬＣＩＦに寄せた献金によって、緊急援助活動と長期復興事業に対する３００万ドル余りの資金提供が可能となった。Ｐｅｎｇ Ｈｕａライオンズ村の再建は、ＬＣＩＦが支援した数々の事業の一つである。雲南省でも１８０戸の住宅、学校、病院を含むＫｕＺｈｕ Ｂｅｉ-ｉライオンズ村の建設が進められ、合わせて３万５千人余りの村人たちが恩恵を受けることになる。四川省では老人介護施設と小学校の建設も計画されている。

## 災害に見舞われたパキスタンを支援

**・地震の被災地に住宅を建設**

パキスタン北部のアザドカシミール地方は、２００５年のカシミール地震で深刻な被害を受けた。アンワール・シャリードの村では死者が２万人、負傷者が１万１８００人余りに達し、数千人が家を失った。しかし、今日では多くの村人たちが明るい未来を期待している。１７７戸の住宅が建設され、地震ですべてを失った人々は既に家を手に入れている。ライオンズはＬＣＩ

## 災害救援への主な献金（2005年以降）

2010年11月23日現在

### 250,000ドル以上

| 地区 | 救援 |
|---|---|
| 101複合地区／スウェーデン | ハイチ大地震救援 |
| 104複合地区／ノルウェー | ハイチ大地震救援 |
| 105複合地区／イギリス諸島及びアイルランド | 南アジア津波救援 |
| 111複合地区／ドイツ | ハイチ大地震救援 |
| 112複合地区／ベルギー | ハイチ大地震救援 |
| 330複合地区／日本 | インドネシア大地震救援 |
| 330複合地区／日本 | パキスタン大地震救援 |

### 100,000～249,999ドル

| 地区 | 救援 |
|---|---|
| 103複合地区／フランス | ハイチ大地震救援 |
| 104複合地区／ノルウェー | パキスタン大地震救援 |
| 105-I地区／イギリス諸島及びアイルランド | ハイチ大地震救援 |
| 303地区／中国 | ハイチ大地震救援 |

### 75,000～99,999ドル

| 地区 | 救援 |
|---|---|
| U複合地区／カナダ | ハイチ大地震救援 |
| 101複合地区／スウェーデン | パキスタン洪水救援 |
| 104複合地区／ノルウェー | パキスタン大地震救援 |
| 104複合地区／ノルウェー | パキスタン洪水救援 |
| 107複合地区／フィンランド | ハイチ大地震救援 |
| 110複合地区／オランダ | 南アジア津波救援 |
| 113地区／ルクセンブルク | ハイチ大地震救援 |

### 50,000～74,999ドル

| 地区 | 救援 |
|---|---|
| ライオンアルナ・オズワル／インド | パキスタン洪水救援 |
| 101複合地区／スウェーデン | バングラデシュ サイクロン救援 |
| 101複合地区／スウェーデン | 南アジア津波救援 |
| 104複合地区／ノルウェー | バングラデシュ サイクロン救援 |
| 104複合地区／ノルウェー | インドネシア大地震救援 |
| 108 -IA1地区／イタリア | ハイチ大地震救援 |
| 112複合地区／ベルギー | パキスタン大地震救援 |

### 25,000～49,999ドル

| 地区 | 救援 |
|---|---|
| ライオンアルナ・オズワル／インド | ハイチ大地震救援 |
| チェスター ライオンズクラブ／アメリカ・ニュージャージー州 | ハリケーン カトリーナ救援 |
| ラクシュミ＆ウシャ・ミタル財団／インド | グジャラート大地震救援 |
| 103複合地区／フランス | ハリケーン カトリーナ救援 |
| 108-L地区／イタリア | ハイチ大地震救援 |
| 108-TA1地区／イタリア | ハイチ大地震救援 |
| 108-TB地区／イタリア | ハイチ大地震救援 |
| 110複合地区／オランダ | 中国大地震救援 |
| 116複合地区／スペイン | 南アジア津波救援 |
| 308-B1地区／マレーシア | ハイチ大地震救援 |
| 330複合地区／日本 | ハイチ大地震救援 |
| 330-B地区／日本 | ハリケーン カトリーナ救援 |
| 330-B地区／日本 | パキスタン大地震救援 |
| 331複合地区／日本 | ハリケーン カトリーナ救援 |
| 334-A地区／日本 | ハリケーン カトリーナ救援 |
| 335-B地区／日本 | ハリケーン カトリーナ救援 |

## 災害救援活動を支援

LCIFは災害が起きると即座に対応し、ライオンズによる現場での救援活動を支援する。その迅速な対応能力は、多くが世界中のライオンズの惜しみない支援によるものである。個々の会員はLCIFの災害基金に献金することで、災害時に緊急援助金が提供されるよう保証している。

ライオンズは、LCIFに対するすべての献金が直接被災者のために役立てられると知っている。その金額を問わず、一人ひとりの献金は被災者の救済に不可欠な役割を果たしている。

**献金の用途：**

**❖水、食料、衣類：**
**25～50ドル** — 水、食料、衣類と靴を提供することで、1週間以上1家族または数人を養い、保護し、支えることが出来る。

**❖応急処置/医薬品：**
**100～250ドル** — 治療を待つ負傷者のために1シフト分の応急処置と医薬品を提供出来る。

**❖地域のインフラを再建及び確立：**
**500～1,000ドル** — 災害によって自宅から退去を余儀なくされ、または家を失った人々に住居を提供するLCIFの長期計画に基づき、住宅再建資金の一部として役立てられる。

**❖LCIFの長期再建活動を支援：**
**5,000ドル以上** — 長期にわたって地域社会に奉仕する学校、診療所、病院の建設に必要な資金の一部として役立てられる。LCIFは災害によってすべてを失った人々のために、住宅・教育・支援を提供する設備のそろったライオンズ村を建設している。

## 継続的な献身

LCIFは被災者を支援し、地域社会を再建し、彼らに希望を取り戻させている。その対応は世界中のライオンズの惜しみない支援により可能となる。災害の場所や規模を問わず、LCIFはライオンズの被災者救援活動に即座に資金を提供する。ライオンズは力を合わせ、人道奉仕を最も必要とする人々のために献身し続けている。

Fの資金提供によって再建を支援し、集まった100万ドル近くの資金は2段階の復興事業に役立てられた。第1段階では150戸の住宅建設と、道路整備が行われ、飲用水供給設備も設置された。第2段階では、ムザファラバード市近郊にあるハリアラ・サエダンの住宅27戸が再建された。

**・洪水の被害者を救援**

2010年7月の歴史的な大洪水はパキスタンの機能を奪い、2千万人を超える人々が家を失った。ライオンズが各地域社会に救援活動を提供出来るよう、LCIFは12万ドルを交付した。世界中のライオンズからも45万9千ドル余りの献金が寄せられ、救援活動の拡大に役立てられた。カラチにある24クラブは、ダドゥ市の被災者のためにトラック6台分の食料を提供した。彼らは軍に協力し、米、粉乳、豆、水やジュースなどの食料が入った2600の袋を自ら配布した。カラチ・ニューメトロライオンズクラブは軍に配布用の医薬品を寄付し、カラチ・バース ライオンズクラブは食品その他の物資を提供した。シアルコットシティ学内ライオンズクラブは被災者に水と毛布を届けるため、車で1900キロを走破した。

# 成長とパートナーシップの1年

## 2009・2010年度LCIF年次報告

2009・10年度、ライオンズは今まで以上に惜しみない援助、時間、そして思いやりをもって奉仕活動を行った。ライオンズクラブ国際財団（LCIF）はライオンズのそうしたすばらしい活動を支えるため、426件、総額2436万ドルを交付した。その主な事例は次の通りである。

- 37件、総額1028万ドルの視力ファースト交付金によって、170万人の視力が回復した
- 36件、総額44万5210ドルの国際援助交付金によって、2万3569人の人々に清潔な飲料水を提供した
- 127件、総額507万ドルの一般援助交付金によって、学校の改修、病院の設備、障害者用の遊び場の建設など、その他数百件のプロジェクトの実施が可能となり、何百万人もの人々がその恩恵を受けた
- その他、390万ドルの交付金によって、数え切れないほど多くの人々の生活が改善された

## 大災害援助金の提供

災害が発生した場合、ライオンズは第一陣として被災地に入り、献身的に支援の手を差し伸べ、最後に被災地から引き揚げることが多い。2009・10年度には、LCIF大災害援助金を通して、11万8050人の人々が161件、総額155万ドルを受け取った。LCIFや世界のライオンズの活動を通して、我々は災害に見舞われた地域に、新たな明るい将来への希望をもたらしている。

特にハイチ地震に際しては、世界のライオンズは被災地支援のため、610万ドル以上を提供した。これによりLCIFはポルトープランスに三つのテント村を建設、2500の家族に提供した。また復興プロジェクトとして、600家族に対する仮設住宅の建設が2010年10月に始まり、更に今後、以下のプロジェクトに取り組むことになっている。

- ポルトープランスの国立看護学校が倒壊し、100人以上の教師や生徒が亡くなり、ハイチの医療専門家が不足するという危機的な状況に陥っている。LCIFは学校を再建し、設備を整え、運営を支援する。更に

地元のNGOと連携して、医療センターの建設、医療器具の提供、トレーニングなどを支援する。

## 視力を守る

1990年に始まった視力ファーストは、2010年に20周年を迎え、この間、世界中で視力を保護し、失明を予防してきた。二つの資金調達キャンペーンを通して、ライオンズは視力ファースト・プログラムに4億1500万ドルを拠出している。

- サイト・フォー・キッズ・プログラムを通じて、視力検査を受診した児童は1200万人に上る。
- 09年10月、コンゴに新しくマシナ眼科センターが開設された。
- 中央アフリカ、ブルンジの2カ国で新たに視力ファースト・プログラムが始まった。
- 世界で1億3700万個のメクチザンの配布を支援。特にエクアドルでオンコセルカ症を根絶した。

## 青少年の支援

2010年、ライオンズクエストは25周年を迎えた。このプログラムは60カ国、1200万人の生徒に、自尊心、社会的及び心理的学習、市民としての価値観、暴力及び薬物乱用防止、そして奉仕などといった、日常生活に必要なライフスキルを提供している。

- ライオンズクエストには30件、総額244万ドルが交付され、20万人の青少年が教育を受けている。またブルガリア、モーリシャス、フィリピンが新たにこのプログラムを導入した。
- 子どもたちの問題行動を防止し、社会技能を向上させたとして、ノルウェー教育省教育訓練局から最高の評価を受けた。

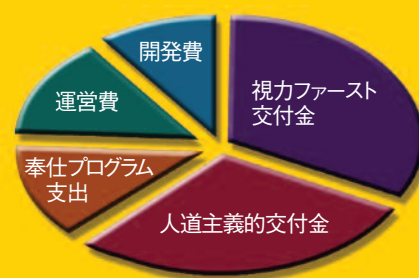
## 障害と闘い、自立心を育成

LCIFは障害者に職業訓練や雇用の機会を提供し、教育の改善を支援すると共に、自立心を向上させ、精神的、身体的に健康でいられるよう手助けしている。

特に10周年を迎えたスペシャルオリンピックスとの提携では、オープニングアイズ・プログラムにより、85カ国、20万人のアスリートの視力が改善されている。

### LCIF財務状況 2009年7月1日～2010年6月30日

| 収入 | |
|---|---|
| 献金 | 34,343,310 |
| ライオンズクエスト収入 | 529,690 |
| 投資収入 | 26,756,508 |
| 正味為替差益 | 208,273 |
| 収入合計 | 61,837,781 |

| 支出 | |
|---|---|
| 視力ファースト交付金 | 10,275,656 |
| 人道主義的交付金 | 12,932,605 |
| 奉仕プログラム支出 | 4,649,195 |
| 運営費 | 5,091,174 |
| 開発費 | 3,749,236 |
| 支出合計 | 36,697,866 |

### LCIF財務状況 2010年6月30日現在

| 資産の部 | |
|---|---|
| 現金及び同等物 | 12,191,302 |
| 受取勘定 | 7,703,963 |
| 誓約金受取勘定 | 972,940 |
| 経過利子再建 | 551,802 |
| 在庫品 | 692,198 |
| 投資 | 256,563,948 |
| 有形固定資産及び備品 | 126,820 |
| 資産合計 | 278,802,973 |

| 負債及び正味財産 | |
|---|---|
| 買掛金及び未払金 | 328,629 |
| 交付金支払 | 36,360,714 |
| 事前贈与年金預り金 | 289,507 |
| 負債合計 | 36,978,850 |

| 純資産 | |
|---|---|
| 用途無指定資産 | 120,215,559 |
| 用途一時指定資産 | 121,108,564 |
| 用途指定資産 | 500,000 |
| 正味財産合計 | 241,824,123 |
| 負債及び正味財産合計 | 278,802,973 |

た。世界のライオンズの手を借り、オープニングアイズはアスリートの視力検査を実施し、必要であれば眼鏡を提供する。LCIFは昨年までにこのプログラムに1100万ドルを交付、更に10年10月に100万ドルが追加承認され、提携が継続されることになった。

## 協力関係を構築する

昨年、我々は多くのことを成し遂げたが、それでもまだ、やるべきことはたくさんある。そのためには、パートナーシップを構築することが最も効果的である。LCIFは更に世界の人々の生活に希望や変化をもたらすべく、これからも新しいパートナーと連携していく。

- ボシュロム社の小児眼科研究所と連携し実施している小児白内障イニシアチブでは、状況を克服する革新的な方法を模索し、資金援助を行い推進することにより、子どもたちとその家族や地域社会に長期的な利益をもたらす。ボシュロム社は、初年度にLCIFに35万ドルを提供し、この試験期間内に白内障を患っているとされる、少なくとも4万人の子どもたちがいる中国で重点的に取り組みを行う。またこのイニシアチブは、小児白内障の原因やその治療をよりよく理解することを目的に基礎研究への資金援助も行っている。10年12月に、16件の交付申請のうち2件の研究計画が選ばれ、それぞれの研究に5万ドルが交付された。
- LCIFはエシロール・インターナショナルと新たにパートナーとなり、未矯正の屈折異常に対する総合的なサービスを支援する。エシロール・インターナショナルは低コストの設備や専門スタッフを提供し、試験計画が採択されたアフリカで実施されることとなった。
- 財団は世界的なリーダーを招集し、世界の最も差し迫った問題への革新的な解決法を立案し、応用するクリントン・グローバル・イニシアチブに参加している。このパートナーシップを通して、13年までにアメリカの一つの学区でライオンズクエストが導入される。

※年次報告書全文は国際協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org/JA/index.php）からダウンロード出来ます。

### 2009-10年度 LCIF理事長メッセージ

## 人々に奇跡を

LCIFをご支援頂いた皆様に心より感謝申し上げます。2009-10年度、当財団は大きな成果を上げ、世界中の人々に奇跡を実現してきました。

このような多くのプロジェクトは、パートナーの皆様の協力なくしては成し得ませんでした。さまざまな組織、企業、非政府組織が私たちとビジョンを共有してくださいました。私たちはライオンズの理想を共有出来る人々と連携し、財政的支援あるいはプロジェクトへの協力という形で、支援を必要とする人々に共に奉仕します。

今年度は未矯正の屈折異常におけるエシロール社、小児白内障治療・予防におけるボシュロム小児眼科研究所、はしか予防におけるビル&メリンダ・ゲイツ財団などの新たなパートナーシップによって、私たちの取り組みが一層強化されました。今後実施されるプログラムでも、このような新たな協力関係が構築されるでしょう。

ライオンズ・メンバー、パートナー、献金者の皆様のおかげで、LCIFは連携を望む世界の非政府組織の第1位に挙げられています。私たちは寄せられた献金の活用にも責任を持って取り組んでいます。

世界中の人々に更なる奇跡を起こせるよう、今後も当財団をご支援頂きますようお願い致します。

「われわれは奉仕する」を共に実践致しましょう。

2009-10年度LCIF理事長・元国際会長
アル・ブランデル

**代議員及び補欠代議員証明用紙**

## ライオンズクラブ国際協会提出

（2011 年 5 月 1 日までに国際本部へ郵送してください）

### ライオンズクラブ国際大会 － 2011 年 アメリカ、ワシントン州シアトル

クラブ番号： 地区： 代議員割当数：

会員数 ：

クラブ名：

住所：

クラブの割当代議員数は「国際会則」第 6 条第 2 項を参照しご確認ください。

**これは大会登録用紙ではありません。**各代議員は、資格証明を受ける前に、大会登録用紙に登録手数料を添えて国際協会の大会部あてに**必ず**提出してください。登録には同封の用紙、ライオン誌掲載の用紙、あるいはライオンズクラブ国際協会のウェブサイトからダウンロードした用紙をご利用いただくか、もしくはライオンズクラブ国際協会のウェブサイト（www.lionsclubs.org） でのオンライン登録をしていただくことが可能です。

該当するものを選択 ☐ 代議員 または ☐ 補欠代議員

氏名（ローマ字）：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 署名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

下記署名者は、上記の者が正会員であり、本年度ライオンズクラブ国際大会への代議員（または補欠代議員）として、当ライオンズクラブにより正式に任命されたことをここに認定する。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

署名（クラブ会長、幹事または会計）

上記をライオンズクラブ国際協会（太平洋アジア課）宛に 2011 年 5 月 1 日までに郵送してください。それ以降は直接大会会場にお持ちください。

Lions Clubs International・300W 22nd Street・Oak Brook, IL 60523-8842 USA

JA

---

## 代議員/補欠代議員（控）

（この控えを国際大会へご持参ください）

### ライオンズクラブ国際大会 － 2011 年 アメリカ、ワシントン州シアトル

クラブ番号： 地区： 代議員割当数：

会員数 ：

クラブ名：

住所：

LCI stamp for Alternate Delegate Certification

クラブの割当代議員数は「国際会則」第 6 条第 2 項を参照しご確認ください。

**これは大会登録用紙ではありません。**各代議員は、資格証明を受ける前に、大会登録用紙に登録手数料を添えて国際協会の大会部あてに**必ず**提出してください。登録には同封の用紙、ライオン誌掲載の用紙、あるいはライオンズクラブ国際協会のウェブサイトからダウンロードした用紙をご利用いただくか、もしくはライオンズクラブ国際協会のウェブサイト（www.lionsclubs.org） でのオンライン登録をしていただくことが可能です。

該当するものを選択 ☐ 代議員 または ☐ 補欠代議員

氏名（ローマ字）：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 署名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

下記署名者は、上記の者が正会員であり、本年度ライオンズクラブ国際大会への代議員（または補欠代議員）として、当ライオンズクラブにより正式に任命されたことをここに認定する。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

署名（クラブ会長、幹事または会計）

津波に襲われ、茶色く濁った海水が広がる町の中心部＝12日午後、宮城県南三陸町志津川で陸上自衛隊ヘリから（写真提供：共同通信社）

## 東北地方太平洋沖地震に対し LCIFが4億円の支援を決定

3月11日14時46分、三陸沖を震源に発生したマグニチュード9の大地震とそれに伴う大津波は、東北から関東地方の沿岸地域に壊滅的な被害をもたらす未曾有の大惨事となった。LCIFはこの災害の一報を受けて緊急会議を開き、現地時間11日正午（日本時間12日未明）までに1億円（125万ドル）の支援を決定。その2日後にはこれを4億円（500万ドル）に引き上げて、緊急支援金を拠出することとした。これには大災害援助金、緊急援助金、そして世界中のライオンズから寄せられた用途指定献金が含まれる。このうち緊急援助金については、被災地域の332‐A、B、C、D、333‐B、C、Eの7地区に対して、それぞれ1万ドルを即座に送金した。LCIFは用途指定献金口座「日本地震／津波救済」を開設。エバハルト・ヴィルフス理事長は公式ウェブサイトを通じて、「これまで他国での災害発生時にも、真っ先に応じてくれたのが日本のライオンズでした。彼らが困っているこの時こそ、世界のライオンズが心を一つにして援助の手を差し伸べましょう」と協力を呼び掛けている。

国内では八複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（増田十郎世話人）が13日に不老安正、山浦晟暉両国際理事出席の下で緊急会議を開き、日本ライオンズ連絡事務所内に日本ライオンズ東日本大震災支援対策本部を設置。会員1人3千円以上（被災地区を除く）を目安に義援金を要請すること、各複合地区、準地区の緊急援助積立金から資金状況により相当額を送金することとし、14日に義援金口座を開設した。

なお、4月7日に東京での開催が予定されていたLCIFセミナーは中止され、後日ヴィルフス理事長による被災地視察が検討されている。

## ニュージーランド地震 地元ライオンズの緊急支援活動

2月22日にニュージーランド・クライストチャーチを襲った地震は、日本からの語学研修生28人を含む死者・行方不明者240人（3月1日現在）に上る大惨事となった。地元202・E地区のライオンズは電力や水道の供給が止まった地震直後、迅速に救援活動に着手した。

202複合地区（ニュージーランド）ウェブサイト（www.lions.org.nz）は地震翌日の23日に202・E地区緊急支援基金の開設を告げ、翌24日にはロン・ラクストン元国際理事が202・E地区のライオンズによる緊急支援をリポートしている。それによると、ラーウィン・クリアウォーター地区ガバナーは被災から24時間以内に大量の飲料水ボトルを調達。地元ラジオ局に依頼して配給場所を報じてもらい、市内全域と郊外の各所で配給を開始した。女性ガバナーのライオンクリアウォーターは「被災した人たちは水の提供に感謝し、自らも被災者であるライオンズが市民を助けていることに感銘を受けていた」と話している。

この活動にはLCIFから即座に交付された緊急援助金1万ドルが充てられた。同地区は他にも、市民防災センターのボランティアに加わったり、市内各所に設けられているセンターに避難した人々に食事を提供するため、2万ドルを拠出するなどの支援を行っている。

LCIFは緊急援助金に加え、長期的支援を目的とする大災害援助金10万ドルを交付。被災地での救援活動を支援するため災害基金「ニュージーランド地震2011」を開設した。

## 第23回平和ポスター・コンテスト 大賞受賞者はインドの11歳

2月1日、「平和へのビジョン」をテーマに行われた第23回国際平和ポスター・コンテストの大賞が発表され、インド・マニプール州モイランの11歳の少年、Raj Phairembamが受賞した。コンテストには11歳から13歳の児童約35万人が参加。国際レベルの審査はアメリカ・イリノイ州シカゴのロヨラ大学美術館で行われ、芸術、教育、平和、マスコミなど各分野の専門家ら35人の審査員が優秀賞24人を選び、その中から大賞1点を選出した。日本からは各複合地区で選ばれた8作品が国際審査に進んだが受賞はなかった。大賞受賞者には賞金5千ドルが贈られ、3月18日にニューヨークで開催された国連ライオンズ・デーの授賞式にゲスト2人、スポンサー・クラブの会長と共に招かれた。

次回コンテストのテーマは「子どもたちは平和を知っている（Children Know Peace）」。コンテスト実施に必要なキットはライオンズクラブ国際協会日本事務所（TEL：03・3494・2931　FAX：03・3494・2933）で販売されている。

## 334・E地区フィリピン医療奉仕をスクラッグス国際会長が視察

第36回目を迎えた334・E地区（長野県／丸山正芳ガバナー）とフィリピン301・D2地区の日本・フィリピン合同医療奉仕活動が、2月10日から13日の4日間、マニラ近郊で実施された。無医地域のバランガシティ・サンフェルナンド地区、昨年の大型台風で大きな水害を被ったパシッグシティ・カインタ地区など4カ所で内科、歯科、眼科の診察が行われ、このうちパシッグシティでの活動にはシド・スクラッグス国際会長が視察に訪れた。恩田弘志地区国際関係・LCIF委員長によると、会長は診察を行うメンバーと握手し、また患者さんたちと和やかに会

話を交わしながら熱心に視察され、この活動のすばらしさに大変感動されていたという。更に今回は、30数年にわたる活動に対する感謝の意を表して、フィリピン社会福祉開発省のヤンコ副長官から丸山ガバナーにエメラルド色の盾が贈呈された。

「恵まれない人々に治療を施し、地区内53クラブが集めたタオル、歯ブラシ、石鹸等の物資を手渡しで配り続けてきたこの活動が、今回の国際会長初訪問で国際的にも再評価されました。フィリピン政府にも切望される活動として、今後も大輪の花となって、地区内メンバーの日々の奉仕活動に彩りを添えていくことを願っています」（恩田委員長）。

## ゲイツ財団と手を携えて はしか予防に取り組む

ライオンズクラブはアフリカの子どもたち410万人をはしかから守るため、ビル&メリンダ・ゲイツ財団と提携を結んだ。ライオンズ・はしかイニシアチブは、エチオピア、マダガスカル、マリ、ナイジェリアに暮らす9カ月齢から47カ月齢までの子どもたちの少なくとも95%にワクチンを投与することを目指している。

同財団とLCIFはこのプログラムに合計75万ドルを拠出し、昨年10月からワクチン投与を開始した。アフリカのライオンズは行政の保健担当者と緊密に連携しながら、子どもたちにワクチン接種を呼び掛けるキャンペーンを展開している。

はしかはワクチンで回避出来る子どもの主要な死亡原因の一つで、失明の原因ともなる。ユニセフはもしワクチンの投与数が落ち込めば、今後3年間に

この病気が原因で死亡する子どもは約170万人に上ると推定している。このライオンズの取り組みは、ユニセフ、WHO、国連財団などの援助で2001年に始まり、これまでに7億人以上の子どもたちにワクチンを投与した、はしかイニシアチブの一環。

## 会議録

**第7回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議**（2月1日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：桜井孝一、古谷野環、其田桂、小野忠博、堀田和之、辻吉治、武久一郎、増田十郎各議長、不老安正、山浦晟暉両国際理事）

①前回会議要録の確認②国際理事からの報告事項③各複合地区からの提出案件④合同事務所設置「調査・プロジェクトチーム」進捗状況報告⑤335複合地区辻議長提案⑥日本ライオンズ連絡事務所運営関係⑦各種会議・委員会報告関連⑧その他報告及び確認⑨議長関係・今後のスケジュール

**第7回ライオン誌日本語版委員会**（2月8日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：山浦晟暉国際理事、後藤忍、種市一二、林静誠、砂田繁雄、竹本實生、小田邦雄、澁田繁晴各委員、小野忠博議長、荘英隆、小柴登司両ITアドバイザー）

①2010・11年度ライオン誌日本語版事務所上半期決算報告②2010・11年度ライオン誌日本語版事務所上半期監査報告③日本ライオンズ関係合同事務所設置④2月号（10万5400部発行）出来⑤3月号記事内容の確認⑥4月号以降台割（案）と主要記事予定⑦オンライン報告システム⑧その他

## 新結成／名称変更／解散クラブ

■新結成クラブ

千葉県・君津プラチナ（萱野孝一会長）▼2月19日結成▼スポンサー／君津

北海道・旭川クリスタル（中村弘一会長）▼3月5日結成▼スポンサー／旭川

■クラブ名称変更

東京都・東久留米→東京東久留米

福岡県・甘木→朝倉

■解散クラブ

1月＝福島県・月舘／山口県・防府リバティ

2月＝兵庫県・明石ロイヤル

## 訃報

■献眼

12月＝ライオン岡田光司（宮崎はまゆう）

---

国際本部・太平洋アジア課発――

## オークブルック通信⑨

### 急成長中の中国ライオンズ

経済発展目覚ましい中国に、世界のライオンズは高い関心を寄せています。太平洋アジア課には日本だけでなくアメリカやヨーロッパなどからも、中国に関する問い合わせが寄せられます。姉妹クラブになりたい、クラブをスポンサーしたい、例会に出席したいなどが主なものです。

2011年1月集計で、中国は351クラブ、会員数9,036人ですが、2月中にもかなりの数の新結成があり、1万人に達するのも遠いことではなさそうです。1月には陝西地域と沈陽地域がそれぞれ暫定地区結成条件の17クラブ、会員数450人に達し、同月に開かれた執行役員会議で新たに388地区と387地区として成立しました。これで中国の地区は7地区となり、既に深圳、広東、大連の3地区が暫定地区から正地区に移行済みです。更に今年度中にはもう1地区、浙江地域に386地区が成立の見込みです。

そんな急成長のため、ライオンズへの理解や指導力育成が十分でないという心配が、早くから指摘されていました。中国ライオンズもそれに応えて積極的に上位リーダーシップ研究会などに参加してきましたが、1年間に四つの新地区が生まれる状況では対応が難しいのが現実でした。そこで昨年12月、中国のリーダー13人が国際本部で1週間の集中研修を受講し、本部の組織機構から各種プログラムの情報提供を受けました。今後このリーダーたちが中国のクラブや地区の運営を指導する予定です。

また中国では「公認ガイディングライオン・プログラム」を積極的に導入しています。会員の年齢層は若く、「平和ポスター・コンテスト」「レオクラブ」など青少年を対象にしたプログラムへの関心が高いのは、そこに一因があるのかもしれません。

# GMT 通信

330〜333複合地区(東日本)担当
GMTリーダー　**後藤忍**

## クラブ内のコミュニケーションで六月病の克服を

**2008年度に発足して以来、継続的に会員増強に取り組む「グローバル会員増強チーム(GMT)」。複合地区、地区とのチームワークで、会員増強の目標達成をサポートするGMTリーダー2人に、交替でチームの動向や担当エリアの会員増強の成功事例などを伝えてもらう。**

日本のライオンズクラブの会員数は１９９２年5月に17万人を達成したのをピークに下降が続き、現在は10万7千人となりました。

この19年間の傾向を見ると「六月病」という日本独特の現象があります。それは7月から翌年5月までの11カ月間は順調に会員数を伸ばしてプラスで推移していても、年度末6月の1カ月間で3千人から5千人が一度に退会してしまいマイナスになることです。外国では退会を思い立った時点ですぐ行動するところ、日本では節目を重んじることから生じるのかもしれません。

退会者が6月に集中して多いのは憂慮すべきことですが、4月と5月の間は退会を悩んでいる会員を引き止める絶好の機会でもあります。この時期、経験を積んだ会員は地区年次大会や新旧役員会等たくさんのイベントが重なり、悩んでいる人たちの存在になかなか気付きません。各クラブのリーダーの皆さんは、クラブ例会等で十分配慮してコミュニケーションを取るように努力してください。悩んでいる会員への声掛けが「六月病」を改善する特効薬になるでしょう。実際、国際会長や国際理事の重責を務めた方々でも、一度は退会を考えたことがあるという経験談を耳にしています。ちょっとしたきっかけで退会を思い止まり、今では得がたいトップ・リーダーとして活躍されているのです。

ライオン誌の調査によると、退会理由として最も多いのは「仕事上」の48・3%であり、次に「健康」が21・3%、「死亡」が10・4%と続き、この3要因で全体の8割を占めています。しかし6月に退会を考えている会員はこの三つに限らずさまざまな要因で悩んでいると思われます。20年前のバブル崩壊後の経営不振と高齢化による病気、死亡はやむを得ないとしても、せっかく入会した会員の40%が5年以内に退会していく現状を何とか打破しなければなりません。

新入会員にライオンズクラブに早く馴染んでもらい、疑問や不安を取り除くために役立つ資料が用意されています。詳しくはライオン誌3月号ピックアップ「かけがえのない会員を失わないために」で説明しておりますので、参考にしてください。

最後に、全国の地区ガバナーの力強い決意を紹介します。

去る2月3日に全国地区ガバナー会議が開かれました。各地区における国際会長テーマの進捗状況と会員維持・増強の抱負について全地区ガバナーからプレゼンテーションがあり、特に会員増強については12月31日集計で、全国９２６人の純増が達成され、すばらしい結果となっております。各地区が下半期の目標とする数値を合計すると１４７４人の純増で、年度末には全国総計で２５００人プラスを目標にしております。この目標が実現されたら、１９９３年から続いてきた会員減少が一気に解消されてプラスに転じることとなり、日本のライオンズクラブにとって画期的な出来事になるでしょう。「六月病」を克服して明るい未来を描けるよう、各クラブのリーダーと地区役員の皆様に最善の努力を期待しております。

pick up ピックアップ

会員増強

# 若手5人の会員増強チームを編成し、同世代の新会員15人を一気に獲得。

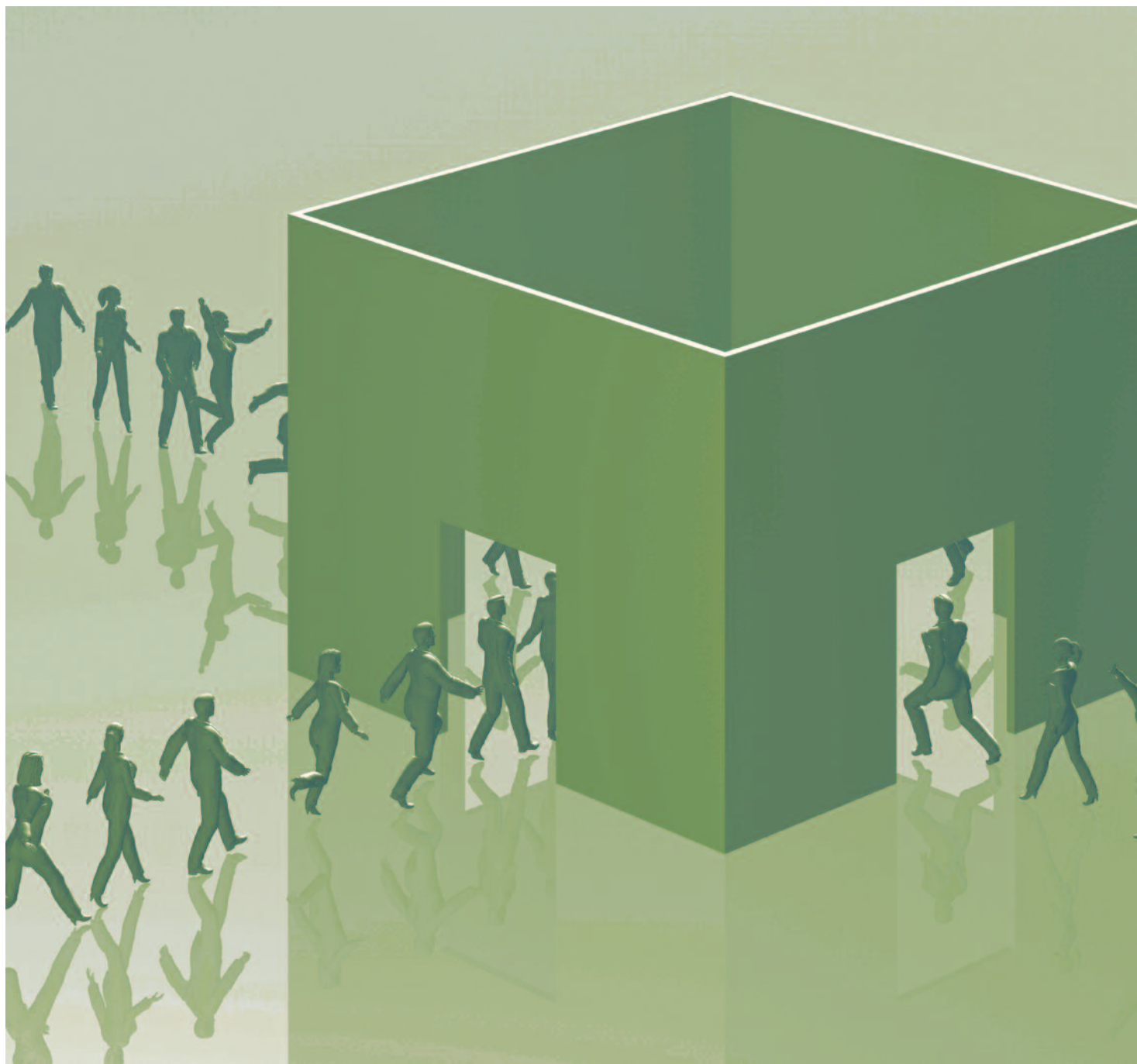
景気が回復しない。さまざまなNPOが出来、ボランティアの選択肢が増えている。会員増強が難しいと言われる中、原因としてそんな分析が聞かれる。が、家族会員やクラブ支部結成による増加以外で、20人の新会員を迎えた山口県・防府、16人の愛媛県・松山中央、14人の大阪府・八尾など、上半期で10人以上の増強を果たしたクラブがあるのも事実。そこで今回は、若手会員による会員増強チームを編成し、その活躍により30代から50代を中心に15人の新会員を迎えた群馬県・太田西ライオンズクラブを取材し、会員増強の鍵を探ってみた。（取材／鈴木秀晃）

## 若手を起用し、同世代の会員招請を図る

太田市は群馬県の南東部にあり、南に利根川、北に渡良瀬川と、水量豊かな二つの川に挟まれている。市のほぼ真ん中にある金山には、関東七名城の一つで、日本100名城にも選定されている太田市のシンボル金山城がある。

江戸時代には大光院の門前町、日光例幣使街道の宿場町（太田宿）として栄えた。大正期以降は富士重工業の企業城下町として飛躍的な発展を遂げ、現在も北関東随一の工業製品出荷額を誇っている。

太田市の人口は約22万人、市内には五つのライオンズがあり、211人の会員がいる。今年度が始まるまではそのうち3クラブが50人弱、2クラブが30人弱という構成だった。が、年度も後半となった現在、太田西ライオンズクラブ（木下不二夫会長／63人）が15人の新会員を迎え入れ、会員数では頭一つ抜きん出た格好となった。

しかも、これら新会員の年齢は35歳から61歳（30代4人、40代4人、50代5人、60代2人）と、バランスの取れた増強となった。また若手が増えたことから、クラブの平均年齢も前年度の

63歳から50代へと一気に下がった。

「当クラブは今年度が第29期で、会員の平均年齢が高くなっていました。当然、友人・知人も同年代が多く、既にいろいろな会に属しているため、招請が難しくなっていたんです。そこで、要職経験者で構成していた会員増強委員会とは別に、今年度は思い切ってクラブの若い方から5人を集めて会員増強チームを作り、若い人をターゲットに活動をして頂くことにしたんです」

と、その実行方法を木下会長が明かしてくれた。

会員増強チームの編成を見ると、リーダーは最も若いライオン佐藤満男(43)で、それに続くライオン木村剛(48)、ライオン加曽利正美(48)、ライオン山岡正幸(49)、ライオン永井良治(54)の4人がメンバーとなった。これは太田西ライオンズクラブにとっては、異例とも言える人事だった。

「前期までは、三役と3人の副会長でクラブの動きを統制していました。委員会活動も、ほとんど担当副会長の意思決定の下、行われていました。しかし、今年度は木下会長がそれを変え、委員長中心に動くことで、委員会の活性化を図ったんです。これによって、会員のモチベーションが上がり、それが会員増強チームの活動にも反映されたと思っています」

と、会長経験者のライオン佐野義之が、その辺りの事情を説明してくれた。

更に木下会長は10人のチャーター・メンバーを始め、会員歴の長い先輩会員たちの意見を聞く場を設けた。ここで運営についてのアドバイスを求めると同時に、若手による会員増強チームについて説明し協力を求めた。

「当クラブはもともとオープンな雰囲気で、経験豊かな先輩たちが、若手ともフランクにお付き合い頂ける風土があるんです。それにここ数年、若手に活躍の場を与えようという声も出ていました。今年度は、そうした流れの延長線にあるととらえています」

と、木下会長は話す。が、佐野元会長の表現を借りれば、それは「山が動いた」ほどの変化であったようだ。

## ロケット・スタートで勢いに乗る

そうした環境整備は、当然のことながら、若手の会員増強チームとっては大きなバックアップとなった。

「目標を達成出来たのも、三役がもり立ててくれたおかげ」

と、佐藤チーム・リーダーは話す。

「指名委員会が終わった後、2月中に次期会長予定者のライオン木下から打診を受け、3月にはチームがスタートしました。15人という高い目標が設定されたので必死でしたね。そのため、これはチームワークで達成するしかないと、ひんぱんに会議を開き、三役や会員増強委員会と密に連携しながら進めました。5人が一つになれたことと、スタートが早かったため、7月の第1例会でいきなり7人の入会がありました」

この時、入会した7人にはライオン田島慎之(37)とライオン森祐一(39)の30代2人が含まれ、更に翌月にも38歳のライオン中村仁が加わった。

「ロケット・スタートが切れたのは当然のことながら大きいんですが、今までクラブにはいなかった30代のメンバーが、一気に3人も増えたというのもポイントですね。これで完全に勢いに乗れた気がします」

と、自らも友人を1人迎え入れたライオン木村は話す。一方、言い出しっぺの木下会長は、

「自分のアイデアで若手の5人には少しハードルの高い目標を設定したものの、いざスタートしたら、付いていくのがやっとというぐらいの勢いで突っ走ってくれました。委員会活動にしても会員増強チームにしても、ホップ・ステップ・ジャンプという感じで、すべてがうまくつながった気がします」

と振り返り、クラブが活性化したという実感を持つことが出来たという。それを象徴するように、新会員がスポンサーになり、次の新会員を招請するというケースがあった。

10月に佐藤チーム・リーダーのスポンサーで入会したライオン福田聡美は太田西ライオンズクラブが思っていた以上に楽しいと、早速友人を誘ったのだ。そしてこの2月、ライオン福田のスポンサーでライオン小川光子が入会。実はこれが、目標とする15人目の新会員だった。

## 友人を誘うに足るクラブなのかが肝心

では、会員増強チームは具体的にどのように動き、実際の会員招請の場で何を感じたか、チーム・メンバーの話を聞いてみよう。

「私の場合は、同業者や取り引き先、友人など、十数人に声を掛けたんですが、ほとんどの方は『ライオンズはよく知らない』という答えでした。そこでクラブの概要を説明すると、今度は景気が悪いからとか、まだボランティアが出来る状況ではないとか、逃げを打たれて……。ただ、こまめに連絡をして、本気で説明をしていくうちに、気持ちが変化してきているのを感じました。自分はライオンズに入って企業人として伸びた、育ててもらえた、と実体験を話したんですが、同世代の経営者などはその辺の食いつきが良かったですね。景気が低迷する中、クラブに入会するメリットを明確にすることも必要だと思いました」(ライオン佐藤)

この他、招請に当たってはそれぞれ、「第二の人生として楽しんでは?」(ライオン永井)、「社会貢献が出来、人脈が広がると共に視野も広がるし、さまざまな経営者の考え方を吸収出来る」(ライオン山岡)、「仕事上のつながりだけではない交友関係を広げられる」(ライオン加曽利)、「ライオンズに入会して、私自身が会員の皆さんから学んだことを感謝を持って伝えさせてもらった」(ライオン木村)などのアプローチをしたという。

それに対して、一定の理解は示しながらも、時間などを理由にやんわり断る人がいる一方、最初から拒絶する人や無関心な人も多かったそうだ。そうした経験を踏まえ、「自分自身が今まで奉仕活動を『させて頂く』という心

太田市のシンボル金山城跡

構えで取り組んでいたか改めて考えさせられた」「入会を勧める会員自身が、ライオンズクラブの具体的な魅力を理解し、楽しんでいないと説得力がない。自分の至らなさを痛感させられた」など、自らを振り返る機会にもなったようだ。

また、「今期のように活気のある時は良いが、会長や役員の入れ替えによって影響を受けるので、親しい友人に入会を勧めるのはためらわれる」「みんな1人や2人は、切り札を持っている。要はそのカードを出すかどうか」という正直な感想も聞かれた。

チームの中でも、こうした点は再三話題に上ったそうで、「太田西ライオンズクラブのカラーを出すにはどうしたらいいか、ディスカッションを重ねました。そこから、さまざまなアイデアが出て来ましたし、副次的に新しいアクティビティも生まれました」（ライオン加曽利）という。

実はこれこそが、会員増強のキー・ポイントになっているのだ。親しい友人や知人、あるいは家族を招請するには、クラブ自体が楽しく、また活動的でなければならない。そのためには時折立ち止まって、自分自身を振り返ったり、クラブの現状を点検したりする作業が必要となる。

こうした作業を「振り返り」と呼ぶ。「振り返り」のないプロジェクトやチームは成長しないと言われるが、太田西ライオンズクラブは今年度、運営方法の大転換と会員増強チームの編成という思い切った戦略により、会員たちがクラブを見つめ直す機会を作って成功した。木下会長の言う「ホップ・ステップ・ジャンプと、すべてがうまくつながった」のも、「振り返り」によって目標を共有出来たからだろう。

ゴールが分かれば、行動計画も立てやすい。太田西ライオンズクラブの成功体験を参考に、クラブを成長させる「振り返り」をぜひ実践して頂きたい。

CLUB REPORT

# クラブ・リポート

●当欄はライオンズ、レオ、ライオネスの活動報告を扱います。投稿要領は54ページ参照

北海道・名寄ライオンズクラブ

## 50年目を迎えるクラブの新たな挑戦

名寄市は天塩川と名寄川の合流点にある道北の街。冬場は冷え込みが厳しく、1月の平均気温は氷点下9・7度で、全国の市の中では最も低い。そんな名寄の雪はさらさらで、きめ細かく、市では「雪質日本一」をアピール。毎年2月には、その名も「なよろ雪質日本一フェスティバル」が開催され、今年も2月9日から13日までの5日間、名寄市南広場を会場に行われた。

市内外から多くの人が訪れたこのイベントには、名寄ライオンズクラブ（栗原豊明会長／40人）も参戦。11日から13日の連休中、3日連続で焼きおにぎりや焼きそば、味噌おでん、甘酒などの店を出し、事業資金獲得に努めた。

「当クラブは来年で50年目を迎えるんですが、こうした形の資金造成活動は今までやっていませんでした。それが昨年夏、産業まつりに初出店したところ、そこそこうまくいったんです。これに味をしめ、じゃあ名寄最大のイベントである雪質日本一フェスティバルにも出ようと一気に盛り上がりました。やってみると、目的である事業資金獲得もさることながら、クラブのきずなが強まり、その意味でも大きな成果を得られました」

と、栗原会長は話す。

イベント前にはメニュー決めの試食会を連日のように開いたが、その中心となった飲食店経営のライオン石田雅人(40)は、7月に入会したばかりの新人だった。そしてライオン石田の他にも、今回の資金調達アクティビティでは40代、50代の若手会員が大活躍。一方、会長経験

者を始めとしたベテラン会員も厳寒の中、売り子となって、朝から晩までの立ち仕事に挑戦。また、高橋藤次第1副会長は、市の鳥に指定されているアカゲラの着るぐるみを自主制作。会員がそれを着て集客に一役買うなど、活動を楽しむ姿も見られた。

こうして全員一丸となり新しい試みに取り組んだことで、会員のコミュニケーションが深まりクラブが活性化。更には本来の目的である資金獲得も、差し入れの豚汁まで販売する商魂で、当初の売り上げ目標を軽くオーバー。今回の新たな挑戦は50年目を迎えるクラブが、また一つ脱皮するきっかけとなるかもしれない。（取材／鈴木秀晃）

三重県・神都ライオンズクラブ

## 甘酒で温かいおもてなし

日本人の総氏神とも言われる天照大御神と、衣食住を始めとした産業の守り神である豊受大御神が祀られた伊勢神宮。平成25年の式年遷宮を前に、宇治橋の架け替えなど平成17年から諸祭、行事が進行中だ。昨年の参拝客の数は860万人と過去最高の数を記録。昨今のパワースポット・ブームもあり参拝に訪れる人たちで連日にぎわっている。

1月23日、その伊勢神宮の外宮表参道前で、神都ライオンズクラブ(木本伸良会長/56人)が参拝客に無料で甘酒を振る舞った。これは、日本全国から初詣に訪れる人たちを地元クラブとして温かくもてなそうというもので、今年で8回目を数える好評のアクティビティだ。

テントの設営から甘酒作り、参拝者への配給まですべて会員とその夫人たちが行う。

「メンバー同士の親睦を深め、クラブの連帯感を作り出すこともこの取り組みの目的の一つです」

と語るのは木本会長。今年は以前から交流のある福岡中央ライオンズクラブの面々も参加し、内輪だけでなく、他クラブとの交流も深める良い機会となった。

「甘酒いかがですか〜」

準備が整い、ライオンたちが声を掛けると、参拝を終えた人たちが押し寄せ、テントの前にはあっという間にいくつもの行列が出来上がる。慣れた様子で手際よく配るライオンたちだが、それでも間に合わないほどの人気ぶりだ。

「おいしい!」「もう一杯もらえる」と、評判も上々。聖地・伊勢で2千年の悠久の歴史を感じながら飲む甘酒は格別で、心まで温めてくれるかのよう。大人も子どもも自然と笑顔がこぼれていた。

ひっきりなしに訪れる参拝客に、気がつけば甘酒は残りわずか。朝10時から配り始めた3千人分の甘酒は昼過ぎにはなくなりアクティビティは大盛況のうちに幕を閉じた。

日本古来の「おもてなし」の心を感じさせるこの取り組み。これからも絶やさないでほしい。(取材/安藤英則)

京都洛東ライオンズクラブ

## 区民まつりでリサイクル事業

11月23日、京都洛東ライオンズクラブ（廣田頼子会長／34人）のサービス・エリアである京都市山科区の山科中央公園で「ふれあい〝やましな〟2010区民まつり」が開催され、当クラブはここでリサイクル事業を実施した。この事業は335・C地区環境保全委員会が設置した環境美化デーの、地区統一アクティビティを視野に入れた活動である。

クラブのブースではエコキャップ（ペットボトルのふた）、プルタブ、中古眼鏡、使用済み乾電池をそれぞれ回収した。回収されたものはワクチンや車いすに交換され、必要としている人を支援することが出来る。

当日は天候に恵まれ多くの来場者があり、メンバー19人がリサイクル品の回収作業や、リサイクル方法のパンフレットを配布して啓発活動を行った。そして、エコキャップ約8100個、プルタブ2万3千個、中古メガネ156個、乾電池はコンテナ2箱と、予想を上回る成果を上げることが出来たのである。

今回の区民まつりでは、我がクラブがこのようなリサイクル事業を行っていたことを知らずに来場された方々が非常に多かった。これを毎年継続することが、区民の方々の認知を高め、環境意識を向上させ、更なるリサイクル品の回収につながることと考える。

（市民・環境委員会／久保田雅彦）

徳島眉山ライオンズクラブ

## 国内最大級ＬＥＤ万華鏡モニュメント設置

徳島市のシンボルである眉山山頂に完成した日本最大級のＬＥＤ（発光ダイオード）万華鏡モニュメントの点灯式を、12月24日夕刻に行った。光がともされると参加した市民から大きな歓声が上がった。

これはかねてから、徳島眉山ライオンズクラブ（林昭博会長／33人）が結成50周年記念事業の一環として、徳島市観光協会の協力を得て進めてきたもの。万葉集に「眉のごと雲居に見ゆる阿波の山……」と詠われ、クラブ名の由来でもある眉山山頂の、開発、活性化といった地域の要望に応え、ロープウェイ山頂駅舎屋上にＬＥＤ光の万華鏡を設置。多くの市民に憩いと潤いの場を提供し、併せて観光客誘致と地域活性化を目指した。

一方、徳島市では現在、ＬＥＤを生かした町づくりを民間活力のシンボル事業と位置づけ、「光」に彩られた水都とくしまの魅力創出を目指し、新しい観光スポットを全国に発信する計画を進めており、これにタイアップする企画である。またこのモニュメントには防災告知機能も付加。地震や津波等の災害発生時には、ＬＥＤ光の点滅等によりいち早く危険を告知し、市民の安全な暮らしの一助となる。

モニュメントは高さ約6メートル幅4メートルのボックス型で、内部におよそ4100個のＬＥＤ発光体を設置。外見は光のオブジェ、下から覗くと色鮮やかな無限大のパターンが変化する万華鏡が展開する。点灯時間は日没からロープウェイの夜間運転と合わせて午後10時30分まで。

またここが出会いの場になってほしいとの願いを込めて出会いの鍵が作成され、第1号として横綱白鵬関と徳島出身の紗代子夫人がフェンスに鍵を掛けるセレモニーも行った。

（結成50周年大会委員長／福家眞一郎）

静岡県・浜松南ライオンズクラブ

## フィリピンに学校建設

　結成30周年を迎えた浜松南ライオンズクラブ（鈴木義雄会長／49人）は昨年8月、記念事業としてフィリピン・ミンダナオ島の先住民族が暮らすマリガヤ村に小学校を建設。9月23日、グランドホテル浜松で開かれた周年式典でその報告をした。

　マリガヤ村ではこれまで小学校低学年の70人が集会所で授業を受けるだけだった。が、この校舎の完成で、幼稚園から小学校高学年まで110人が通えるようになり、教師は1人から3人に増え、校庭や学校菜園も使えるようになった。

　その後、当クラブはLCIF交付金を受けて水道等のインフラを整備。事業総額は450万円に及んだ。

　鈴木会長は今回の成功の要因を次のように挙げる。クラブが30期に入る半年前から準備委員会を立ち上げたこと。現地の政府関係者や住民、児童と直接会い、事業の必要性を強く認識しクラブが一丸となって取り組んだこと。その上で「生活や経済の原点は教育」と位置付け、現地の子どもの教育事情に詳しい日本交流センター（ICAN）のサポートを得たことである。

　更に、現地での校舎竣工式に出席した際、クラブ・メンバーに向けられた子どもたちのキラキラとした目、それがこのアクティビティの必要性を実感させたと、鈴木会長は報告した。

　式典並びに懇親会にはライオンズ関係者の他、川勝平太静岡県知事、鈴木康友浜松市長ら約230人が出席。フィリピンから駆け付けたジェネラルサントス市のエスロレラ・C・ラリオサ教育長は、「近くに学校が出来たので通学率が上がった」と、お礼を述べた。会場では、マリガヤ村の子どもたちが遊ぶ写真など約200枚の展示に、参加者は「いい笑顔」「楽しそう」と見入っていた。

　今後の交流を続けるための募金も寄せられ、当クラブでは日本の子どもたちとの絵画の交換などを視野に入れて長期的な交流を計画している。

（CN30周年実行委員会）

茨城三和ライオンズクラブ

## いつもと違う学童野球大会

イラスト／篠田和夫

　茨城三和ライオンズクラブ（鹿嶋漸会長／41人）は10月17日、第3回茨城三和ライオンズクラブ杯近隣学童野球大会を開催。近隣の少年野球24チーム、約500人の学童が参加した。

　企画段階でのこと。

「ただ野球をやらしても面白くねえ。今年はなんか一工夫すんべ（茨城弁）」と誰かが言い出した。そこで検討。子どもたちに環境問題に目を向けてもらうため、参加料としてチーム当たり500個のエコキャップを持参。野球指導者及び保護者には各チーム4人以上に献血に協力頂く。と、無謀にも青少年、環境保全、献血と三つのアクティビティを同時に実施しようということになった。

　これを参加チームに提案したところ、相当な反発を食らうのではという危惧に反し、多少の意見はあったがおおむね好意的に受け入れて頂けた。急きょ、採血車の手配など準備に取り掛かることに。

　結果は次の通り。エコキャップ回収125キロ（約5万個）で参加料の4倍以上。献血も申込者123人と予定数を大きく上回り、メンバーが採血する時間が取れないほどの状況となった。

　この企画を通して、子どもたちには健康で野球を出来る喜びに対しエコキャップ回収で社会に恩返しをすること、大人にも献血による社会奉仕をして頂けて、ライオンズの奉仕活動が少しだけ広がりを見せたと思う。メンバー一同心地よい達成感を味わうことが出来た。

（幹事／下村宏幸）

和歌山中央ライオンズクラブ

## 懐かしのチンチン電車を塗装修復

和歌山中央ライオンズクラブ（30人）は10月20日、和歌山市岡公園に保存・展示されている市電、チンチン電車の「三二一（さにい）号」の塗装修復を行った。

明治42年から和歌山市〜海南市と和歌山〜新和歌浦の2路線を走ってきた市電は、車の交通量が増えて渋滞が問題になったため、昭和46年4月に廃止された。現在、2両が岡公園と海南市に保存・展示されているが、10年以上も塗り替えられず塗装がはげた車両を見るに見かね、当クラブが塗装修復を申し出た。

ペンキ塗り作業では、子どもたちに市電について興味を持ってもらおうと、和歌山大附属小学校の3年生29人にも参加してもらった。

和歌山城管理事務所職員が市電の歴史を説明し、車内を見学。子どもたちは、「クーラー付いてるん?」「こんな電車走っていたんや」と珍しそうに眺めていた。

その後、メンバーと児童は背伸びをしたりかがんだりしながら、青のペンキで車体を塗装した。

大西秀男君は「ドアの部分をがんばって塗った。またチンチン電車に走ってほしい」、田村莉子ちゃんは「まさか電車を塗れるとは思っていなかった」と喜んでいた。

三二一号にはいつまでも奇麗な姿を保ってほしい。通りから目に付きやすいよう、植え込みの背も少し低くしたので、たくさんの人に見てもらいたい。チンチン電車は市の歴史の一部、和歌山のシンボルとして、大切に保存して多くの人に楽しんでもらいたいと思っている。

（会長／有本太一）

兵庫県・丹南ライオンズクラブ

## 歩育とウォーキング教室

青少年健全育成事業に力を入れている丹南ライオンズクラブ（小村紀昭会長／21人）は11月17日、認定こども園篠山市立味間保育園（溝畑和美園長）との共同企画「歩育とウォーキング教室」を実施した。

近年、子どもたちが歩かなくなり、疲れやすい、キレやすい、けがをしやすいなど、運動不足からくる心身の問題が生じていると聞く。その解消には歩行やリズム性運動が有効とされることから、当クラブでは児童の健やかな成長を願い、昨年からこの事業を実施しているのである。

当日、酒井隆明篠山市長を始め教育委員会の方々がスタート前に園に駆け付け、身振り手振りで激励の言葉を掛けてくださった。

ルートは年齢により約1・2キロと2キロの2コース。79人の園児たちは2列に並んで保育園を出発。「あそこにカラスがおる」「ウンチが落ちているよ」など、道中で気になるものを次々と見つけ、友達とにぎやかに話しながら歩いた。ライオンズ・メンバーの他にも、同保育園で体験学習「トライやるウィーク」を行っている市立丹南中学校の生徒5人が、園児の手を引いて歩くなどサポートしてくれた。

コース折り返し地点の大沢1号公園では、音楽講師や演奏活動をしている西田夫佐さんを招き、「崖の上のポニョ」や「ひらひらひら」など、子どもたちに人気の歌をエレクトーンで弾き語る野外ミニコンサートを開き、園児たちを楽しませた。

最後まで元気に歩いた杉本久留美ちゃん（4歳）は、「モミジも奇麗だったし、いっぱい楽しかったよ」と笑顔だった。

12月の第1例会には溝畑園長をゲスト・スピーカーとしてお招きし、講評と忌憚ない意見交換を行い、次年度以降の参考にした。

（青少年育成委員長／田中正一）

千葉県・旭ライオンズクラブ

## 旭市児童生徒科学作品展

9月4日、旭ライオンズクラブ（金谷修一会長／73人）と旭市教育委員会の共催で、第6回旭市児童生徒科学作品展を旭市海上公民館において開催した。1市3町が合併されて6年になることから第6回となっているが、実際は32回を数える歴史ある作品展である。今年は旭市内の小学校15校と中学校5校から、校内審査を経た優秀作品４９８点が出展され、来場者は2千人を超すにぎわいとなった。

募集のカテゴリーには、モーターや磁石などを使った科学的な工作を対象とした「工夫作品の部」と、自然の事物・現象を科学的に探究し、論文にまとめる「科学論文の部」がある。中には、子どもだけでなく親子のきずなを深めながら「ひと夏の思い出」として制作されたようなものもあったが、そこは経験豊かな審査員の眼力で、厳しい審査が行われた。

本年度は当クラブの結成45周年を記念して、会長賞の他に45周年特別賞を設けた。これらと教育長賞、特選を含めた受賞作品7点が選ばれ、千葉県児童生徒・教職員科学作品展に出品された。

そしてこの県展の小学校科学論文の部で、旭市飯岡小学校6年溝口紘大君の「砂浜の研究6　海風の研究」が見事、激励賞を受賞した。喜ばしい限りである。

ものづくりには、完成した時の何とも言えない達成感と充実感があり、これを身をもって知ることは、まさに青少年健全育成の目的にかなっていると思う。今後も子どもたちのものづくりの喜びを大切に育てることにより、第2のエジソン、アインシュタインが旭市から生まれることを夢見て、このアクティビティを継続していきたい。

（幹事／木内善博）

山梨県・都留ライオンズクラブ

## 山梨県の献血記録更新

都留ライオンズクラブ（久保田博会長／47人）は10月27日、都留市役所前駐車場で秋の献血を開催した。

朝8時30分集合、受付の準備を開始。9時に献血車4台が到着する頃には、9時30分からの受付開始にもかかわらず、10人程が並び始めた。晴天にも恵まれ盛況の兆しを感じて、メンバーは意気揚々、お土産（ティッシュ、マヨネーズ、カップラーメン、ジュース、入浴剤、歯磨き粉等）の袋詰め２５０個に取り組んだ。

切れ目もなく30～40人が並び、午前中の受付者数は１４０人オーバー。皆いつもと違った感触を感じていた。12時～13時の休憩も交代制でフル稼働し、14時30分には予想来場者の２５０人に到達。お土産が足りなくなり、大急ぎで追加発注。15時30分の受付終了時には受付者数２９３人、採血者数２４８人になった。

予想以上の盛況で、一人当たり待ち時間と採血で1時間から2時間半も掛かってしまい、何人かには事情を説明してお帰り頂くという事態も発生した。何とも申し訳ない思いである。

最後の採血が終了したのが夕暮れの17時過ぎ。山梨県赤十字献血センターの方々からは、「20年来、これほどの来場者は初めて」と、当クラブの機動力にお褒めの言葉を頂いた。

これで終わらないのが我がクラブ。反省会と称した打ち上げは、高級シャンパンでの乾杯で大いに盛り上がった。達成感のある献血事業であったこと、赤沢克夫委員長を中心に市内企業に協力をお願いして歩いた成果が出たことを喜び合い、これからのライオンズ活動に生かすことを誓い合って散会となった。（会則・指導力育成副委員長／小保政英）

### 長野県・大町ライオンズクラブ
## 平穏な年越し願い、餅つき奉仕

北アルプスの麓、石原裕次郎の出演した「黒部の太陽」の黒四ダムの玄関口に位置する大町ライオンズクラブ（中村俊久会長／18人）。大町市の救護施設・れんげ荘で、昭和57年の開設以来続けている師走慣例のイベント・餅つき奉仕を本年度もまた実施した。

12月19日、施設の駐車場でクラブ・メンバーと入居者が、快音を立てながら大ぶりの杵を振るった。もち米は、中村会長が生産した「おらがもち」20キロを使用した。入居者が見守る中、そろいの法被をまとったメンバーと、入居者が一体となり、皆の掛け声の中、5臼の餅をつきあげた。

つきたての餅を振る舞って一足早い正月気分を味わい、入居者の平穏無事な年越しを願ったのである。

同施設の坂田和美所長からは、「利用者たちが毎年楽しみにしている年末行事の一つになっています。毎年、ほんとうにありがたいことです」と感謝の言葉を頂いた。

この日は餅の他、老人施設に冬至の入浴用に柚子100個も贈呈した。

また当クラブは毎年、参加者3千人にも上る市の体育協会主催の「日本の屋根を走ろう」マラソン大会でも積極的な資金援助、清掃奉仕、環境整備活動を行っている。10月の第2日曜日、紅葉と、りんごが赤く色付き始めた街道を気持ちよく走ることが出来る。マラソンに興味のある方はぜひご参加を。お問い合わせは大町市役所（電話0261・22・0420）まで。

（社会福祉委員長／五十嵐孝）

### 北海道・函館海峡ライオンズクラブ
## 難病の少女に歌声のクリスマス・プレゼント

血液の難病と戦う少女に歌声のクリスマス・プレゼントを贈りたい。すべてはこの思いから始まる。

函館海峡ライオンズクラブ（石川昭夫会長／41人）は12月18日、函館の冬を代表するイベント「はこだてクリスマスファンタジー」会場の赤レンガ倉庫群において、骨髄バンク登録推進コンサート「angels connection with LOVE ～天使たちが繋げた愛～」を開催した。

発端は8月。骨髄バンク登録推進イベントを行った際、少女と出会った。「薬の影響で口内炎がひどく、キャンディーさえ口に出来ない少女に何かしたい」と、石川会長を筆頭に企画したコンサートだ。

屋外に出ることが難しい少女には、近隣ホテルのスイートルームから鑑賞してもらった。函館の象徴・赤レンガ倉庫に輝く巨大ツリーを背に、市内高校の合唱部員50人が「アメイジング・グレイス」など3曲を合唱。歌声は携帯電話を通じて少女に届けられた。

会場を埋め尽くす2千人を超える聴衆には「ここに居ることさえ叶わない少女がいる」「普段当たり前だと思っていることに幸せを感じてほしい」とメッセージを伝え、骨髄バンク登録を呼び掛けた。

ホテルの窓から見ていた少女は歓声を上げて喜んでくれたそうだ。後日、「来年もツリーを見れたらいいな」と笑顔を見せてくれた。

当クラブは1997年に函館骨髄バンク推進協議会を設立、以来啓発、登録推進及び支援活動を続けてきた。今回の事業は、来期クラブ結成40周年を迎えるに当たり記念アクティビティとして企画したもの。これがドナー登録への小さなきっかけとなればと願っている。（PR・IT委員長／佐藤清治）

岐阜西ライオンズクラブ

## フットサル2010大会

岐阜西ライオンズクラブ（小林良之会長／64人）は11月27日、岐阜市、市教育委員会、岐阜新聞、岐阜放送の後援を得て、初めての「少年・少女達のフットサル大会」を実施した。

最近は携帯ゲームの普及や治安の悪化などで、子どもが外へ出て遊ぶ機会が減ってしまった。そこでフットサルを通して仲間との触れ合いから生まれる思いやり、励まし合う心、目標に向かう大切さを育むことが出来ればと考えている。

岐阜市北部体育館を会場に、岐阜市、瑞穂市近郊のスポーツ少年団児童（小学校3年生対象）8チームによる予選4組2ブロックによるリーグ戦が行われた。決勝トーナメント、3位決定戦の後、優勝チームにはトロフィーと、副賞として当クラブ事業「親子ふれあい鵜飼観覧の夕べ」への招待券を贈呈した。

また、養護施設・日本児童育成園の子どもにも参加してもらい、健闘をたたえて会長賞を贈呈した。

当日の模様は夕方のテレビと翌日の岐阜新聞で紹介された。

更に、今年度の会長方針では各委員会やアクティビティのコラボレーションが挙げられている。そこで日本聴導犬協会の方をお招きし、お昼の時間を利用してデモンストレーションや啓発活動を行い、クラブから協力金を贈呈した。更に岐阜清流国体のPRを兼ねて、マスコット・ミナモちゃんとの体操、記念撮影も行った。

子どもたちが必死に汗を流す姿にメンバー一同が感動し、勇気を与えてもらった。各担当に分かれ1日運営に携わり、労力アクティビティの大変さと充実感を味わうことも出来た。今後も継続したい事業である。

（市民教育委員長／井ノ浦健）

栃木県・宇都宮おおるりライオンズクラブ

## 市民の協力を得て資金獲得事業実施

11月6日、7日、宇都宮の三つの祭りが同時開催された。「宇都宮餃子祭り」「商業祭・宮の市」そして「ミヤ・ジャズイン」だ。県内外から多くの観光客が訪れ、中心市街地は終日にぎわいを見せた。

宇都宮おおるりライオンズクラブ（林利朗会長／37人）もこれに参加。中心部のオリオン通りイベント会場脇に出店し、カレーライス、豚汁、フランクフルト、生花の鉢、つかみ取りのチョコレートなどを販売した。特に綿あめ（100円）、おでん（30～50円）は人気があり、行列が出来るほどの盛況ぶりだった。

ライオンズのアクティビティ資金はメンバーのドネーションもあるが、地域社会にその活動への理解を得て協力頂くのがライオニズムの原点だと思う。ライオンズ発祥の地・アメリカでもクラブがキャンディを販売して浄財を集めるなどすると聞く。

当クラブでは今回の益金とチャリティー・ゴルフの一部、更にエコキャップ、プルタブを宇都宮市社会福祉協議会に贈呈した。

後日、森田陽子前会長がこのイベントでの様子について地方紙の下野新聞に投稿し、「あなたも特派員」欄に写真と共に紹介された。この記事では、当クラブが2008年5月に国際協会から認証を受けて以来、青少年健全育成の一環として市内小学校で薬物乱用防止講習会を開催していることや、YEプログラムでの来日生受け入れ、年間10回に及ぶ献血推進など、幅広い奉仕活動を展開していることも紹介された。

今後も地域に親しまれるライオンズクラブとして積極的に活動を続けていきたいと考えている。

（PR情報委員会）

青森県・弘前チェリー ライオンズクラブ

## ラベンダー植栽事業

弘前チェリーライオンズクラブ（40人）は12月11日、ラベンダー1700本の補植事業を行った。これに先立ち11月15日、弘前市役所市長室で目録の贈呈式を行い、葛西憲之市長から感謝状と共に、「弘前においでの皆さんや、市民の心を和ませてくれるラベンダーを大切に管理していきたい」との言葉を頂いた。

私たちは市外・県外からの観光客、市民の目を和ませようと1999年から植栽を始め、北大通り約2キロに3年間で9千本を植えた。現在では市民から「ラベンダー通り」と呼ばれるようになった。

春と秋に青紫の花を咲かせ、開花時はほのかな香りが周辺を包む。7月頃には刈り取った花を市民にプレゼントしている。ドライフラワーや香袋などを作ったり、挿し木をして増やしている人もいるという。今以上に弘前のあちこちでラベンダーの花が咲いてくれることを願っている。

今回の補植は08年度に続き2度目。猛暑や害虫で枯れてしまい、あちこちに穴が空いた状態になったのを補うものだ。

現場の北大通りは日中は交通量が多く、業者の方たちも注意を払いながら補植作業を行っている。当初はクラブ会長・幹事・会計の3人も手伝う予定だったが、あまりの激しさに我々が出ていくのは危険と判断し、すべてお任せすることにした。

当クラブでは毎年、ライオンズ・デーまたは地区ライオンズ奉仕デーの早朝、ラベンダー通りの清掃奉仕を行っている。環境保全に努め、いつまでもいつまでも人々に喜ばれる青紫の花を咲かせてくれることを会員一同願っている。

（会長／佐藤勝幸）

京都橘ライオンズクラブ

## 年7回の清掃活動が始まった

京都橘ライオンズクラブ（鎌谷裕介会長／47人）は例年3回程の清掃活動を行っているが、今年度は労力アクティビティに力を入れようという鎌谷会長を筆頭に、年間7回の清掃を計画した。この活動は奥村啓二335・C地区ガバナーの、市民を巻き込んだ環境美化奉仕活動の呼び掛けに賛同したものだ。

その第1回を10月31日、京都市西京極総合運動公園の時計塔周辺で実施した。同公園は、毎年12月に男子高校駅伝、1月に全国女子駅伝のスタート&ゴール地点となる陸上競技場があることで有名である。広く市民にも参加を呼び掛けたところ、総勢61人が集まった。

園内には、29年前に当クラブが結成20周年記念アクティビティとして京都市に寄贈した時計塔が、今も立派にそびえ立っている。過去に時計の修繕を行ったことはあるが、塔本体及び周辺の清掃をしたことはなく、この度29年のアカを拭い取ったのである。今、時計塔は気持ちよさそうに、公園を訪れた人たちに時を知らせている。

また、2月には京都府が推進している「割れ窓理論（1枚の割られたガラスを放置すると、いずれ街全体が荒廃するという理論）」実践運動にも参加し、町の落書き消しや張り紙撤去に取り組む予定だ。そして継続して行政、自治体、各種団体、そして市民との連携を図り、より多くの参加者を得て環境美化運動の輪をもっともっと広げようと考えている。

（幹事／石倉宏）

北海道・帯広ライオンズクラブ

## ご夫婦でクラブ幹事！

帯広ライオンズクラブ（加藤芳規会長／35人）は10月21日、結成53年目の記念例会を、帯広さくらライオンズクラブと合同例会という形で迎えた。実に1245回目の例会である。

現在、当クラブの会員は全員男性。一方、帯広さくらは女性クラブ。たまに女性が加わると、ぱぁーっと花が咲いたようで例会が明るくなって良い。互いに違った目線でのクラブ運営に触れることが出来て良い。合同例会は2回目だが、会員にとっては楽しみな企画である。

更に今回は珍しい偶然があった。当クラブの土谷雅明幹事と帯広さくらの土谷節子幹事はご夫婦なのだ。同じ年度におそろいで幹事に就任されるとは、大変珍しく喜ばしく、両クラブにとっても誇りに思える。

もちろん幹事報告はご夫婦交互で行った。計画委員会の計らいで、途中お二人に花束を贈呈。「二人そろってのひな壇は結婚式以来です。何とも照れくさいもので……」とほほ笑ましいお礼のあいさつがあった。会員からは「アメリカならここでハグしてチューだぞ！」などと冷やかされる場面もあり、会は厳粛の内にも笑いがある、実に和やかな雰囲気で進行された。

次に狙うはもちろん、ご夫婦そろってのクラブ会長就任合同例会。そんな喜ばしい日が近い将来実現することを願って、この日は無事終了した。

それにしてもご夫婦で幹事なら、家でもライオンズの話ばかりだろうか。ライオンズ用語が飛び交う食卓を知らない人が聞いたらどう思うのだろう、このライオン夫婦を。

（PR情報委員長／石邑義幸）

335-B地区第5リジョン（大阪府）

## ライオン誌例会の開き方

いちだんと寒さがしみる1月28日、「ライオン誌例会・開催要領セミナー」を盛大に開催。地区PR委員や第5リジョン内のゾーン・チェアパーソン、15クラブの会長・幹事・PR委員長ら52人が参加、オブザーバーとしてキャビネット三役も出席した。

講師は竹本實生元地区ガバナー。現在、ライオン誌日本語版委員でもあり、まずライオン誌発行における内情について話をされた。会員減少や広告収入の減少、近年の円高などの原因による財政難。また、読者からはライオン誌が読みにくい、興味を引く内容がない、といった批判もあり、もっと読んで頂けるよう努力したいといった話もあった。

次に、各クラブでライオン誌例会を開催する際の手法を学んだ。

通常例会では、会長があいさつの中でライオン誌の内容に触れる。クラブPR委員長が気になった記事、ぜひ読んでほしい記事を選んで紹介する。指名を受けたメンバーが感想や意見など3分程度のスピーチをする。テール・ツイスターが記事を材料にクイズを出題など。

特別例会の場合、プロジェクターを使ったり、前もって過去3か月分のライオン誌を読んでテーマを決めディスカッションを行うなど。これによりライオン誌への興味を深めるだけでなく、情報の共有や、相互理解を図ることも出来る。

竹本講師は最後に、2月末までに必ずライオン誌例会を開催してレポートを提出するよう指示された。自らアンケート用紙を準備し配布。そこには今後掲載してほしい記事や、ライオン誌をどのくらい読んでいるかなどの質問があった。

2時間の予定を少しオーバーしたが、時間を感じさせない、真剣かつ楽しい、実の有るセミナーだった。

（地区PR・IT委員／渕上嘉彦）

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領→54ページ

# クラブに活気与える例会訪問

鈴木　良明（愛媛県・伊予土居）

宇高昭造336・A地区ガバナーはライオンズ会員のあるべき姿として「汗をかくこと、学ぶこと、仲のよいこと」を挙げておられます。そして「会員減少に苦しんではいるが、この三つを体の中心に据え、社会奉仕の楽しさを実感出来れば、問題解決の道は開かれる」と所信を述べておられます。また、地域住民に尊敬されるクラブに発展することが会員増強には不可欠として、会員の資質を高めたいとしています。

会員の入会動機は千差万別でしょうが、すべての会員にはそれぞれに入会時の「初心」があります。人は新しい位置に立った時、いわゆる初な気持ちになります。少なからず希望を持ちクラブに期待します。しかし、時間の経過と共にその夢が薄らいできます。クラブに身を置いて自分の存在価値を見いだせない、居場所がない、面白くない、楽しくないとなると、やがて退会につながっていくのではないでしょうか。

会員減少の奥には指導力の減退があるとして、国際協会はメンター・プログラムやリーダーシップ研究会の導入を奨励していますが、まだ浸透していないのが現状です。そんな中、宇高地区ガバナーは少し異なった側面に着目され、クラブ活性化のため、次の三つを特別ガバナーズ・アワードの対象として推進しておられます。

まずは、「手作り奉仕」と「同好会の活性化」です。具体的な行動指針として、アクティビティと同好会に面白いネーミングをつけることを提唱しています。会員の機知を育て、楽しさを演出することで、委員会の活性化につながると考えたのです。

そして極め付けが「他クラブ例会訪問」の奨励で、「汗をかくこと、学ぶこと、仲のよいこと」を実践する具体的プログラムです。他クラブへの訪問は行動力・学習力・広い視野・友情を育み、自らの成長を促し、そのことがライオンズ全体の資質の向上につながるものと確信しています。

例会訪問には当初は戸惑いもありましたが、そのうちに多くのクラブがその意義を発見され、地区内に広がっています。寄せられた感想を以下に紹介します。

☆今期はガバナー運営方針により、多くのクラブの例会訪問が出来ました。各クラブが会長スローガンの下、一致団結、創意工夫して奉仕活動に取り組まれていることに感銘しました。学ぶことの多かった他クラブ例会訪問でした。（愛媛県・松山つばき）

☆西条石鎚ライオンズクラブを会長以下3人で訪問しました。テール・ツイスター・タイムのドネーション発表は非常に面白おかしく、クラブの色合いが良く出ているのが印象的でした。本日の見聞を生かし、我がクラブの例会に反映したいと思いました。また、今後の検討事項として、相互の例会訪問の継続や事業参加が話題となりました。（愛媛県・新居浜中央）

イラスト／小川和政

☆336複合地区内の11の女性クラブをすべて訪問しました。例会では見習いたいことや、反面教師として戒めねばならぬことを実感しました。また、運営方法や疑問点を率直に質問・意見交換しました。在籍年数やかかわり方が異なる会員同士が、訪問をきっかけにこれまで話題にすることがなかったライオニズムや、クラブ運営のことを話し出したのを目の当たりにしました。他クラブ訪問は学ぶだけでなく、会員各自がクラブのことを真摯に考え出すようになることが、本来の目的ではないかとも思われます。（愛媛県・今治サーチング）

☆他クラブ例会訪問の必要性は常々理解しており、会長が例会あいさつの中で推奨している。今期はガバナーズ・アワードに設定されたことが会員の意識の高揚につながり、積極的に推進した結果、45人が実行した。今後も前向きに取り組んでいきたい。（香川県・高松東）

☆他クラブ例会訪問計画を毎回の例会レジメにも掲載して、参加を提唱しています。訪問には新発見があり、会員同士のきずなを強める良い機会となりました。（香川県・高松玉藻）

☆「ライオンズの資質を高めよう」を合言葉にリジョン内13クラブは、競い合うように相互の例会訪問をしました。我がクラブの実績は、訪問52人、受け入れ47人の多数に達しました。（香川県・善通寺）

☆伝統と格式ある先輩クラブを訪問することで、改善すべき点を多々学びました。少人数クラブなので手分けして、全員が参加しました。（高知とさみずき）

☆北島ライオンズクラブ５００回記念例会を訪問しました。平均年齢も若いクラブの例会は、活気にあふれていました。そのことが地域に不可欠な多くの奉仕活動の源泉になっているとも思われます。（徳島県・藍住）

他クラブを訪問するという新鮮さに加えて、そこには新発見があり、感動があります。この他にも多数のクラブから賛同の声が届いております。

訪問によって得られる新鮮な感動を今後の糧として頂き、会員として世界の広がりを体験し、参加する楽しみを体得し、楽しい例会、楽しいアクティビティ、楽しいクラブにして頂ければ幸いです。

（地区会員・会則・ＥＸＴ・指導力育成・プロトコール委員長）

## プノンペン市にある孤児院と視聴覚福祉学校視察

星川　隆二（福岡北）

縁あって、ＮＰＯ法人「カンボジアと共に」の訪問団に加えて頂き、カンボジア王国を訪問しました。

目的の一つは、親がいなかったり、親が養育を放棄した子どもたちを育て教育している「未来の光」という孤児院の視察でした。ここは幼稚園児から大学生までの子どもの可能性を最大限に引き出そうという施設だと感じました。子どもたちの目は力強く輝き、その笑顔は人懐っこく、いきいきと学び暮らしている様子でした。中には英語や日本語の出来る子どももいて、学習意欲と能力があれば大学まで進学出来、海外に留学したり卒業して国家機関に就職した子どももいるそうです。

もう一つの目的は、１９９３年にヨーロッパの国からの支援を受けて創立された視聴覚福祉学校「Krousar Thmey（新しい家）」の視察でした。ここは視覚や聴覚に障害のある子どもたちを、保育から大学、

就職まで世話するシステムで、清潔で明るい空間にヨーロッパ・レベルの教師陣と、至れり尽くせりの環境で262人の子どもたちは明るく、いきいきと学んでいました。

私が驚き感激したのは、子どもたちがこんな恵まれた環境に甘えることなく、同じ境遇の子どもたちのために立ち上がったことです。それは、この学校を卒業した8人の聴覚障害のOBが力を合わせて、自分たちが学んだ教育課程を、カンボジアの言語であるクメール語の手話や点字の教本にまとめて出版し、視聴覚障害者たちの大きな支えになっていることでした。また、子どもたちはカンボジアの伝統的な踊りを練習し、夏休みなどに村々を回って公演し、伝統文化の普及にも貢献しています。彼らは、自分で出来る範囲で社会に恩返しをしているのです。

私も仕事は同じ福祉施設の分野です。これまで、毎日利用してくださる親のような年齢の方々の満足のため毎日を過ごし、それなりに充実感と達成感のようなものを感じていました。が、今回、カンボジアの孤児院と福祉学校を訪問して、ハッ!と気付かされました。私の信じる望ましい福祉とは、それは困った人たちのために、自分が出来ることをする、もしかしたら、してあげるとか、させて頂くというのが、福祉の世界と短絡していたと思います。

しかし、あの子どもたちの今日もがんばるぞ、明日はもっとがんばろうと思えるような輝く姿を見て、あっ、これが福祉なんじゃないかと感じたのです。今回の視察旅行で、福祉に携わる者が持つべき心構え、原点に出会えたような気がしました。機会があればまたカンボジアを訪問し、彼らと会いたいと思う今の私です。

# マニラで日本語指導

中澤 功一（茨城県・下館シニア）

12月6日から10日までの5日間、延べ10時間の日本語指導を、フィリピン・マニラ市近郊のバランガイホールで行ってきた。

この企画を推進したのは、水海道ライオンズの会員で私の親友入江昭三郎だった。水海道ライオンズが、フィリピンの貧しい小学校に教育資材（ピアニカ、ノート等）の援助を行っている関係から、適任校選定作業の過程で現地のアナリンさんという英語教師と知り合い、その人の願いを聞き入れる形で実現したものである。

その話を初めて聞いたのは9月頃であった。話を聞いた時にはそれほど乗り気ではなかったが、かつての国語教師としての血が騒ぎ結果的には快諾することになった。

現地のアナリンさんの要望は5日間、1日2時間程度教えてほしいとのことであった。「これはなかなか困難な仕事だ」。企画を初めて聞いた時の私の偽らざる心境だ。指導する場所、受講者の数と日本語に対する基礎知識、指導する環境等、何も分からない中で手探り状態からこの仕事がスター

トした。まず、10時間分の日本語指導の構想を練り、5日間1日2時間の指導過程を練り上げた。ライオンジ入江は情報が入るとすぐ連絡してくれたし、私も指導内容が決まるとその都度彼にも連絡し、2人の連携を深めながら作業を進めていった。

わずか5日間では、日本語の基礎、基本を教えるだけで精いっぱいであるので、指導構想の原点を「日本語に興味関心を持たせる」と位置付け、その観点から作ったカリキュラムに適切な資料を準備してマニラに旅立った。

12月6日、現地に着くとアナリンさんがホテルに待機していた。初対面の顔合わせをして早速日本語指導に向かった。バランガイホールはウナギの寝床のような狭い縦長の建物で、日本の感覚のホールとは全く違う粗末なものであった。ホワイトボードはあるというので、マグネット等を用意し資料も張るつもりでいたが、実際はただの白い板で磁気はなかった。

こんな状態であったが、参加した人は意欲にあふれ熱心に受講した。5日間、若干の人の出入りはあったが、1日平均20人程度が狭いホールいっぱいになって受講してくれた。

指導方法としては基本の説明を私がし、それをより分かりやすくライオンジ入江が英語で解説するというチーム・ティーチング方式で行った。日本からはフラッシュカード、ひらがな50音表、日本の四季の様子が分かるカレンダー、ローマ字と英語と日本語が書いてある基本資料等を用意し、日本語初体験の人でも理解出来るよう工夫した。指導上の留意事項としては、前日の復習を十分にして、指導内容は出来るだけ少なくした。

5日間で指導した内容は、まず自己紹介の仕方、ひらがな50音表による口径指導、「こ、そ、あ、ど」言葉による指示語の表現、カレンダーを使った数字の読み方、数字の構成、その他、人体や職業、家族の呼び方等ベーシックな日本語のみにした。

最後の日は、日本から作っていった「認証状」を授与して、その後さよならパーティーを行った。最後の日として、いつもより多くの人が参加し、公民館に入りきれないほどの人たちとコーラで乾杯し、日本から持参したチョコレートを分け合って食べた。最後に全員で記念写真を撮り、名残を惜しんだ。15歳から35歳くらいの人たちが受講したが、この人たちの中に、日本に行きたいと願っている人が多数いることも分かった。自分たちの指導が、夢の実現の手助けになればこんなうれしいことはない。

また来てほしいという要望を背中で強く受け止め、非常にすがすがしい気持ちで日本語指導を終了することが出来た。

それにしてもマニラは暑い。連日31度という暑さの中での5日間は、けっこうきつかった。

## リーダーシップ

村上　正郎（愛媛県・今治中央）

現代を象徴的に表現する言葉の一つは両義性、つまり玉虫色のあいまいさで、政治も経済もあいまいなことばかりだ。二つ目は両面性。本音と建前は政治家につきものだし、また渡辺淳一の官能小説などで魅力と反発のジレンマがよく描かれるように、一方に傾斜すると全部のバランスが崩れるような、危うさの均衡で成り立っているものが多い。三つ目は両極性だろうか。世の中は悪があるから善があるように、相反する双方がかかわり合っていて、失敗しない人には成功もないし、拒絶出来ない人は受

容も出来ない。怒る人でないと褒めることも出来ないものである。

時代をこんな風にとらえると、現代のリーダーはあいまいさやジレンマに対して許容度の高い、振幅の広い器量を持たねばならないことになる。学者によくある例だが、あいまいさを我慢出来ず、未確認の状況でも白黒はっきりさせないとおさまらない人とか、両面に価値があっても一方に傾斜したい自分を正当化するために派閥を作り、側近グループの力で凌ぐことを考える人などはリーダーとして適任とは言えない。また他のグループと同じ運営、一般的な規格通りでないと落ち着かないコンプレックスは、日本人の特徴と言われるが、これでは発展は望めないし、発展への展望と意欲を持たない者はリーダーではない。

あいまいさや矛盾を受け入れる許容度の高いリーダーは、常に失敗した場合のフィードバック、すなわち復元修正が迅速に出来る用意をしているものだ。こんな人は危機管理にも強いし、緊急の場合の見切り発車も出来るから、遅れをとることもない。

私は戦争中、所属していた中隊で、水野大尉というまれにみる人物に出会った。この水野大尉との出会いを今更のように思い、その幸運をかみしめると共に、リーダーシップについていろいろ考えた。

リーダーシップとは、与えられた状況の下で（状況優先）、目標・課題の達成に向けて、個人または集団の活動に、影響を与えてゆくパワー行使のプロセスである。

パワーは一人で仕事をする能力(ability)を含むが、そればかりではない。他人の能力・技術や人脈、金、物、情報などを状況に合わせて使う能力（competence）によって引き出されるものだ。例えばダムにたたえられた水がパワー、この水をどう使うかがリーダーシップである。

こうしたパワー・ダイナミックス（力学）を考えず、個人でやろうとし、限界が見えても、至誠天に通ずなどと言っていては間に合わない。個人的な能力が高くても、必ずしも実績に結びつくとは限らないものだからである。

ついでに言うと、学歴と学力は同じではないように、リーダーシップも学歴とはまた別次元のものだ。秀才はサラリーマンになって定年でリタイアする者が多く、一方でビリは専門家になって自立し、70歳を超えても現役で働く例が結構ある。本社の課長がカローラで出勤し、下請けの親方が外車で現場に来る例は珍しいことではない。エリートは全部門で良い点を取ろうとするから集中戦略が下手で、テーマによっては無能力者になることもあるのだ。

リーダーシップは生まれつき天性によるものがかなり大きく、次は経験だろう。書物で得られる部分は比較的少ないと思う。だが経験を正しく整理し知恵として集積する必要がある。ライオンズクラブはそんな修練には最適の場のように見えるのだ。

# 335複合地区推奨ホテル（関西地区）

## 神戸ポートピアホテル

ポートピアホテルは、おかげさまで開業30周年を迎えました。国際都市・神戸のリーディングホテルとして、これからも信頼のサービスをお届けして参ります。

神戸市中央区港島中町6丁目10-1
Tel.078-302-1111　www.portopia.co.jp

## 神戸メリケンパークオリエンタルホテル

神戸メリケンパークオリエンタルホテルは、目の前に広がる海と空の眺望を楽しむ全室バルコニー付きのリゾートホテルです。

神戸市中央区波止場町5番6号
Tel.078-325-8111（代表）

## ホテル ラ・スイート神戸ハーバーランド

ゆったりとした70㎡以上のヨーロピアンモダンな客室には、オーシャンビューテラスと大型ジャグジーを完備。

神戸市中央区波止場町7番2号
Tel.078-371-1111（代表）

## スイスホテル南海大阪

スイスホテル南海大阪は、充実した宴会施設や会議室、バラエティ豊かなレストランを備える、ミナミのランドマークホテルです。

大阪市中央区難波5-1-60
Tel.06-6646-1111（代表）

## ウェスティンホテル大阪

緑豊かな環境と、数々の格調高い調度品が優雅な時を演出。多彩なレストランやバーが揃うラグジュアリーホテル。

大阪市北区大淀中1丁目1番20号
Tel.06-6440-1111（代表）

## リーガロイヤルホテル（大阪）

リーガロイヤルホテルは、日本有数の伝統と格式を誇るシティホテル。「水の都」大阪を象徴する中之島に立地。

大阪市北区中之島5丁目3番68号
Tel.06-6448-1121（代表）

## ザ・リッツ・カールトン大阪

ザ・リッツ・カールトン大阪はホテル王、セザール・リッツのサービス哲学が今も息づくラグジュアリーホテル。

大阪市北区梅田2丁目5番25号
Tel.06-6343-7000（代表）

## ホテル日航大阪

大阪の中心、地下鉄心斎橋駅に直結する交通至便なホテル。笑顔とおもてなしの心でお迎え致します。

大阪市中央区西心斎橋1-3-3
Tel.06-6244-1111（代表）
www.hno.co.jp

## ホテルニューオータニ大阪

大阪を代表する「大阪城」と緑豊かな大阪城公園が目の前に広がり、リゾート感覚も楽しめる都市型ホテル。

大阪市中央区城見1丁目4番1号
Tel.06-6941-1111（代表）

## リーガロイヤルホテル京都

京都駅より徒歩7分でアクセス至便。リーガロイヤルホテル京都は、和と洋が融合した京情緒あふれるホテルです。

京都市下京区東堀川通り塩小路下ル
松明町1番地
Tel.075-341-1121（代表）

## 京都ホテルオークラ

本年、創業123周年を迎えた京都ホテルオークラは、東山と京の街並みを望む、気品と伝統が薫るホテルです。

京都市中京区河原町御池
Tel.075-211-5111（代表）

## 京都国際ホテル

開業50周年を迎えます。市内中心部、二条城の正面に建ち、敷地内にある緑豊かな日本庭園では、池で優雅に遊ぶ白鳥が旅の疲れを癒やし、古都の風情を存分に堪能出来るホテルです。

京都市中京区堀川通二条城前
Tel.075-222-1111

## 大津プリンスホテル

琵琶湖の特等席へ、JR京都駅から大津駅まで9分。ホテル前の桟橋から琵琶湖クルーズの旅へ誘います。

滋賀県大津市におの浜4-7-7
Tel.077-521-1111

## 奈良ホテル

奈良市高畑町1096
Tel.0742-26-3300

奈良ホテル　検索

## 姫路キャッスルホテル

充実した施設で極上のサービスをお届けすること、それが姫路キャッスルホテルの最高の誇りです。

姫路市三左衛門堀西の町210
Tel.079-284-3311（代表）

## ホテル日航姫路

ホテル日航姫路は、姫路の中心JR姫路駅前に位置し、ビジネスや観光の拠点として幅広くご利用頂けるホテルです。

姫路市南駅前町100番
Tel.079-222-2231（代表）

## 西村屋ホテル招月庭

創業150年の西村屋が手掛けた「新しい時代の日本のホテル」西村屋招月庭でくつろぎのひと時を。

兵庫県豊岡市城崎町湯島1016-2
Tel.0796-32-3535（代表）

## ホテル金波楼

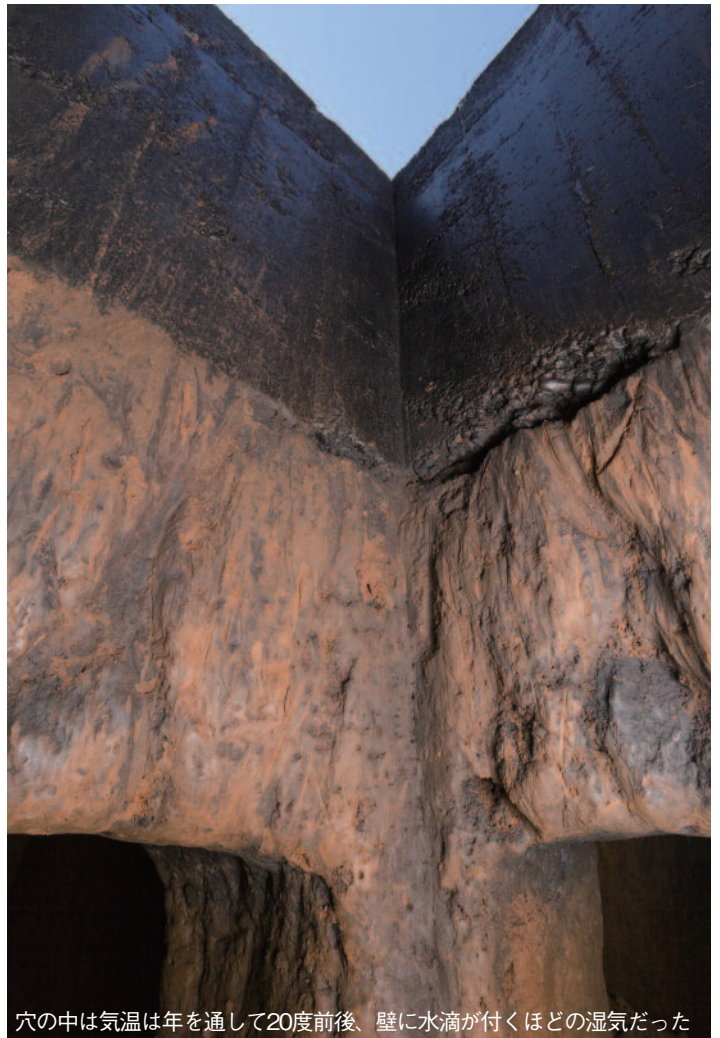
奇岩が入り組む山陰屈指の景勝地。海岸沖に、竜宮城が浮かぶ絶景を朝な夕なお楽しみ頂けます。

兵庫県豊岡市瀬戸1090
Tel.0796-28-2111

ふるさと探訪

東京都立川市

# 暗闇で静かに身を伸ばす 東京育ち、美白の野菜

■文／砂山幹博　写真／田中勝明

穴の中は気温は年を通して20度前後、壁に水滴が付くほどの湿気だった

## 美白がウリの東京野菜

春を告げる食材として知られるウドだが、全国有数の産地が東京であることをご存じだろうか。副都心新宿からJR中央線の特別快速で23分。駅周辺にはビルが建ち並び、近未来都市の様相を呈する多摩地域の中心都市・立川市こそが、東京産ウドのメッカである。

ところでこのウドには、身の丈が短い緑色をしたものと、ひょろ長くて白い2種類がある。前者は野山に群生する山ウドで、古くは奈良時代から山菜として食されてきた。一方、後者は柔らかく食べられるよう軟化栽培されたもので、立川のウドはこちらのタイプだ。シャキシャキとした歯ざわりと香りの高さ、そしてなんと言ってもその際立つ白さが最大の特徴である。白さの秘密は独特な栽培方法にある。生産者の荻田武男（東京立川ライオンズクラブ）が栽培している場所を見せてくれるというので早速訪ねた。

案内されたのは、荻田宅の裏庭であった。ウドらしきものは見当たらず、代わりに地面の所々にカーペットが敷かれていて、その真ん中から煙突が突き出ているのが目に入った。荻田がそのうちの一つのカーペットをめくると、地面にぽっかりと口を開けた穴が出現した。実は立川のウドは「ムロ」と呼ばれる地中で栽培される。ウドにはいくつか軟化の方法があるが、ムロの中で日光に当てずに育てるやり方は立川ならでは。普段は雨水が入らな

庭に掘られたムロ。雨が入り込まないよう、普段穴は覆われている

ムロの高さは約1メートル。ウドの背丈が天井まで届くと収穫される

いよう、ムロにはカーペットなど何重かのフタを被せており、換気のために煙突が取り付けられている。それにしても、こんな場所でウドが育てられているとは驚きだ。

懐中電灯を手に、深さ4メートルほどの縦穴を梯子で降りると、地底には高さ1メートルに満たない洞窟のような小部屋が四方に広がっていた。奥行きは4メートルほどあるという小部屋にはそれぞれ真っ白なウドがびっしりと群生していた。

「ウドはとてもデリケートな野菜。少しでも光が入るのはもちろんのこと、ムロの中の空気が動くだけで緑色に変色します。立川のウドは白さが命。色がついては商品価値が下がりますから、生産者の私たちもめったにムロの中には入りません」

と荻田は話す。

白さを保つこと以外にも、地下栽培のメリットがある。ムロの中は1年を通して湿度70～80％、気温は20度前後と実に安定している。そのため、他の作物の生産量がグッと落ち込む冬場でも収穫出来るウドは、生産者にとって魅力的な農作物なのである。

**ウド作りは、根株作り**

東京でウドの栽培が始まったのは江戸時代後期。尾張地方から持ち込まれた栽培技術が多摩地域北部に定着した。

立川駅周辺は、多摩都市モノレールが走る近代的な景色が広がる

当時の栽培方法は畑に簡単な穴を掘り、フタを被せて日光を遮るというシンプルなものであったが、次第に現在のようなムロ栽培が主流になる。この辺りでムロ栽培が盛んになったのは、立川が関東ローム層に覆われていたことが背景にある。厚い粘土層は深く縦穴を掘っても崩れにくく、穴蔵を作るのに適していた。

ところで、真っ白なウドはどのようにして出来るのか。荻田に尋ねると意外な答えが返って来た。

「ムロに植えるのは芽の付いた根株と呼ばれるもの。水と肥料を与えなくても根の力だけで伸びるので、植えた1カ月後には自然に育ち、あの白いウドとして収穫出来ます。実は、ウドの良し悪しはこの根株次第。根株は大きく太ったものほど良いので、ウド農家は地上の畑で1年かけて根株を大きく太らせるのです」

ウドの根から芽を取り出して3～5月の間に地上の畑に植え付け、定期的に肥料を与えていくと秋には「ウドの大木」の名の通り2メートル近くに成長する。12月初旬、畑に霜が降りると大木は枯れ、大きく成長した根株の収穫時期となる。根株は放っておくと自然に芽が伸びてくるので、冷蔵貯蔵に入れ根の発達を抑制。出荷の時期に合わせて根株はムロに移される。

関東ローム層の粘土層は、玉川上水でも確認出来る。
いまも護岸が土のままの部分が多く残されている

ムロに根株を植える作業は重労働だ。地面から天井までの高さが1メートルの小部屋で、半日近く中腰で作業をする。そんな苦労に報いようとしてか、真っ暗なムロの中でウドはまっすぐ力強く我が身を伸ばす。そう言えばウドは漢字で「独活」と書く。ムロの中での静かな成長ぶりを見れば、「独りで活きる」とは言い得て妙だ。

収穫時、荻田が穴の底でウドを刈り取り木箱に詰めると、地上で奥様がウィンチで引き上げる。この作業は「独り」というわけにはいかない。

「だから夫婦げんかは出来ないんだ」と話す荻田の表情が印象的だった。

## 我が町にウド料理を

　ウドと言えば穂先は天ぷら、皮はきんぴら、茎は酢の物に和え物、炒め物が定番だが、生で食べてもみずみずしいのが東京産ウドの特徴だ。水分が多いのは高湿度のムロで育つから。身が柔らかく食物繊維も豊富なウドは、和洋中を問わず何にでも合う食材だ。実際、立川市内ではウドピラフにウドカレーなどさまざまなウドメニューが誕生している。なかでもパイオニアとも言える存在が、中華料理店「五十番」のウドラーメンだ。考案者の高橋粂さんに伺うと、メニュー誕生のきっかけは、14年前に立川のウド生産者がつぶやいたこんな一言だったという。

「立川はおかしな町だ。ウドは全国の6割を作っているのに(当時)、それを食べさせる店が1軒もないんだから」

　早速高橋さんはラーメン店組合のメンバーを集めてメニューを考案。各店自由な発想でウドラーメンを提供することに決まったが、結果はうまくいかなかった。ウドは食材として高価な上、足が早く半分以上捨ててしまう店が続出したのだ。当初20軒あったウドラーメンを出す店も最終的にはたったの3軒に。それでも高橋さんは、市内の飲食店関係者に「ウドを使ったメニューを開発しよう」とお願いして回った。扱いにくい食材にどこも難色を示したが、1軒の和菓子店が高橋さんの熱意に応じた。

「最初はウドでまんじゅうを作ったけれど日持ちがしない。そこでウドを甘露煮にした焼き菓子を考案しました」とは、「やな瀬」の落合俊雄さん。この時誕生した「うどパイ」は、今では立川を代表する土産となっている。

　高橋さんの情熱とそれに応えた人々の努力があって、その後幾多のウド料理・製品が誕生した。また、市内の八百屋では、10年前に比べ5倍もウドが売れるようになったという。以前はほとんどが市外に回っていたが、市民がウドを食べるようになったのだ。

「飲食店にしてみれば扱いづらい食材かもしれないけれど、料理人には優しい食材。腕次第でいくらでもおいしい料理に変わっちゃうんだから」

　と高橋さんは笑顔をのぞかせた。

　とびっきりの色白で、少々扱いづらいけれど根は優しい。東京ウドにはどこか女性を感じさせる趣がある。

立川ウドメニューの元祖、五十番のウドラーメン

甘露煮にしたウドを白味噌餡で包んで焼き上げた立川名物「うどパイ」

### 郷土自慢・クラブ自慢

　東京立川ライオンズクラブの郷土自慢は、立川市民には憩いの場として馴染みの深い昭和記念公園。隣接する昭島市にまたがる総面積180ヘクタールという広大な敷地を持つこの公園は、国が設置した国営公園の一つ。もともと旧日本陸軍の飛行場であった土地を第二次世界大戦後に米軍が接収。昭和52年に日本に全面返還された後、一部は陸上自衛隊立川駐屯地となり、残った大部分は昭和天皇御在位50年記念事業の一環で国営公園として開設された。園内には昭和天皇のゆかりの品々が陳列された昭和天皇記念館の他、広場や日本庭園、都内最大級のプールなどが整備されている。桜の名所としても知られ、園内に1500本ある桜は、ソメイヨシノやヤマザクラを始め31品種に及ぶ。

▼東京立川ライオンズクラブ(田野倉和己会長/73人)＝1965年4月21日結成

## 読者から―2月号

### ■女性会員にエール

「ピックアップ：女性会員ワークショップ」のように、女性会員ががんばっている様子を伝えることは、クラブ内で少数ながら活躍されている女性たちの励みになります。紅一点でがんばっている方を紹介する記事も良いかと思います。

滋賀県・大津比叡ライオンズクラブ●北岸秀規

### ■未来に向かう子どもたち

開いた時にまずカラフルな絵が目についた（第23回国際平和ポスター・コンテスト）。ポスターを1枚1枚じっくりと見ると、未来に向かって明るい顔をした子どもたちでいっぱいだ。このコンテストを通じて、子どもたちは知らず知らずのうちにライオンズクラブがどんな団体か、まさに世界平和を具現する団体であることを理解したに違いない。

長野県・松本ライオンズクラブ●上條貢

### ■ライオンズの原点

「獅子吼」の「今泉賞を受賞して」に感動を覚えました。1万5千人の小さな町にある長崎県・波佐見ライオンズクラブが、ライオンズのノーベル賞とも言われる今泉賞を受賞された快挙に敬意を表します。静岡県・小山ライオンズクラブを目標に、思いやりの心で徹底して献眼に取り組む姿こそ、ライオンズの原点だと心から称賛を送ります。

沖縄県・八重山ライオンズクラブ●識名安信

## ライオン誌例会のススメ

ライオン誌日本語版委員会はクラブ例会でのライオン誌活用を推奨しています。

●THEME「LCIF」ではラオスでの交付金事業と、災害被災地での支援事業をリポート。また2009-10年度年次報告も掲載しています。LCIF献金がどのように活用されているのか？　LCIFの意義を会員みんなで確認してはどうでしょう。

●ピックアップ「会員増強」では、今年度上半期に純増12人の成果を上げたクラブが登場。その取り組みを参考にしつつ、クラブの会員増強アイデアを話し合ってみましょう。

★「ライオン誌例会 開催ガイド」では、通常例会のプログラムに取り入れたり、ライオン誌に関する特別例会を企画するなど具体的な活用方法を提案しています。ライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）でPDFファイルをダウンロードしてお使いください。

## ライオン誌投稿要領

**■クラブ・リポート**今月号32～42ページ：アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。写真があれば添付。

**■獅子吼**今月号43～47ページ：会員及びその家族によるエッセー、提言など。1,600字程度。

▼原稿は誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合があります。原則として原稿の返却は致しません。返却希望の場合はその旨を明記してください。

▼アクティビティ写真は動きのあるものを。記念撮影のような写真は掲載に適しません。

▼電子メールでの写真投稿は長辺1,600ピクセル程度のJPEG最高画質で。

▼住所、氏名、クラブ名を明記。

送付先：〒104-0045
東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
ライオン誌事務所
Fax：03-3546-2630
E-mail：edit@thelion.jp

### ■悩めるクラブ

現在、多くのクラブが会員増強に努力されていると思いますが、我がクラブもその一つです。毎月の例会で『ライオン』誌を読み合わせしていますが、なかなか良い方法も見つからず悩んでいます。小さいクラブの悩みを紹介して頂ければ幸いです。

鹿児島県・大根占・根占ライオンズクラブ●壱崎紀男

### ■思いやりの気持ち

「もう一度読みたい『あの記事』：新会員への手紙」に全く同感です。クラブ内の会員の批判は決してしない。人それぞれ顔、姿が違うように考え方も違います。相手を思いやりさりげなく手を差し伸べる。そういうベテラン・ライオンになりたいと常々思っています。

福岡城南ライオンズクラブ●吉野充

### ライオン誌事務所来訪者芳名録

| 月 | 日 | クラブ | 氏名 |
|---|---|---|---|
| 2 | 3 | 青森県十和田 | 小松崎壽志 |
| 2 | 3 | 愛媛県川之江 | 宇高昭造 |
| 2 | 3 | 青森ねぶた | 田中博 |
| 2 | 3 | 青森ねぶた | 斎藤直美 |
| 2 | 3 | 青森ねぶた | 平岡東雄 |
| 2 | 3 | 高知よさこい | 東條節子 |
| 2 | 3 | 高知よさこい | 伊藤博樹 |
| 2 | 3 | 高知よさこい | 髙橋雄 |
| 2 | 9 | 埼玉県浦和 | 小峰理孝 |
| 2 | 9 | 北海道札幌ポプラ | 瀧澤嘉門 |
| 2 | 9 | 宮城県気仙沼 | 千葉宏一 |
| 2 | 9 | 茨城県水戸東 | 細田誠治 |
| 2 | 9 | 富山県高岡古城 | 伊勢豊彦 |
| 2 | 9 | 兵庫県姫路白嶺 | 小林登 |
| 2 | 9 | 山口 | 倉益芳太 |
| 2 | 9 | 兵庫県姫路中央 | 作原正博 |
| 2 | 16 | 東京 | 池崎道男 |
| 2 | 16 | 東京 | 加藤光晴 |
| 2 | 17 | 沖縄 | 百田勝彦 |

『ライオン』誌バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

## もう一度読みたい「あの記事」

●2002年3月号　こころのチキンスープ

# 「暗黒に照らしまたたく蛍かな」

話は8年前にさかのぼる。

山口県宇部市といえば、戦前から知られた鉱工業の町で、戦後は彫刻と緑の町としても整えられた。その宇部市で11月3日、宇部まつりが開かれた。地元の宇部新川ライオンズクラブも参加して献眼の登録を呼び掛けていた。

「アイバンクにご協力を・申し込み受付所」と書かれたテントの前に、一人の少女が立った。見れば中学生か、高校1年生くらいの年ごろの少女であった。

「献眼のパンフレットをあげよう。よく読んで、役立ててね」

少女の答えは、きっぱりとしていた。大人たちの思いもよらぬものであった。

「献眼登録をしたいんです」

少女は申込書にすらすらと「宇部中央高校1年、上田智子」と名前を書いた。ふっくらとした丸顔の少女は、何かさっぱりしたような表情であいさつをし、会場を去った。

年が明けて、春から夏になった。宇部新川ライオンズクラブに、献眼提供者があったという連絡が入った。亡くなったのは、16歳の少女だという。

「あの子か。あんなに元気そうだった子が、まさか」

駆け付けると、祭壇に飾られていた写真は、まぎれもなくあのふくよかな顔立ちの智子さんだった。大好きだったという帽子と洋服、チョコレートが供えられていた。

智子さんのお父さんが、宇部まつりの日の様子を話してくれた。あの日、智子さんは家に帰るなり、父にこう報告したという。

「お父さん、今日はとても良いことをしてきたんよ。お祭の広場で、ライオンズクラブの人が、献眼登録の申し込みを受け付けていたんよ。私ね、前からしようと思っていたんだ。それでね、登録してきたんよ」

智子さんは、その日こんな句を作った。

「暗黒に照らしまたたく蛍かな」

それからわずか9カ月後、その少女の献眼が、現実のことになるなどとは誰も考えてもいなかった。家族が遺品を整理していた時、1編の作文が見つかったという。中学3年の時に書いた「可能性への挑戦」という題の作文だった。

「《人生の可能性への挑戦》、これを聞いた時、小さい頃祖母に言われた一つの言葉を思い出した。その言葉とは、《自分の幸せを祈るより、人の幸せを祈りなさい。そうすれば自分の幸せは必ずつかめる》という内容だった。（略）私はこの世の中に自分があるということに誇りを持っている。自分とは、他人のために何かをして一つの大きな山を作り、その山一つを作り終えたらまた一から作り始める。その繰り返しで、本当の自分が見えてくると思う。避けたり逃げたりせずに、自分の小さな可能性を信じて真っすぐの道を進んで行くことが大切だと思う。（略）私が第一歩を踏み出すことだ」

智子さんは、真っすぐの道をひたと見つめて、歩き出したばかりだったのだ。お母さんが涙をこらえて話してくれた。

「智子の顔を見てやってください。献眼の手術の後、義眼を入れて頂いて、ほんと、この子、奇麗ですよね。ほんとに奇麗ですよね」

智子さんは、生きてそこに静かに横になっているかのようだった。美しく、喜びにあふれ、輝いているようだった。（構成／青山研）

## 読者プレゼント

**■福祉作業所のクッキーを10人に**

下馬福祉工房（東京都世田谷区）が作るクッキーの詰め合わせを読者10人にプレゼントします。本誌はクラブあて一括発送の梱包・発送作業を世田谷区内の福祉作業所に委託し、20数施設の利用者が交代で担当していますが、下馬福祉工房もその一つ。同工房の「しもまるくん」は、全国の障害がある人たちがパンや菓子作りの腕を競う「ユニバーサルベーキングカップ」で第3位を受賞したこともある愛らしいクッキーです。

**応募要領**：はがきに「しもまるくん」と明記し、住所、氏名、電話番号、クラブ名をご記入の上、ライオン誌プレゼント係あてにご応募ください。本誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=0）からオンラインでの応募も出来ます。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は4月末日。応募多数の場合は抽選となります。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

## 次号予告

### THEME 人生を楽しむ

「仕事が生きがい」「趣味は仕事」という生き方もあるが、趣味や遊びは人生を楽しく豊かなものにしてくれるものだ。皆さんのクラブにも、趣味や遊びに打ち込んでいる愉快な仲間がいることだろう。そんな中から、キャンピング・カーを駆って全国を釣行する女性釣り師や、私設の天文台を建てた元教師など、人生を思う存分楽しんでいる4人の会員を紹介する。

### Pick up 若手フォーラム

地区の垣根を超えて、自由活発な意見交換が展開された330 - A、B、C地区合同若手フォーラムの取材リポート。

### ふるさと探訪 福島県白河

毎年2月11日に開かれる白河だるま市は、福を求める大勢の人でにぎわう。約300年の歴史を持ち、現在も丁寧な手仕事で作られている白河だるまの工房を訪ねた。

## 築地通信

●2月13日に道北の士別と名寄で、取材を4件こなした。実は当初、この日の天気予報は暴風雪で、取材地まで行けるのかさえ心配していた。が、2日前の予報では曇り時々雪に変わり、更に当日になってみると晴れ間も出る好天。以前、山形の天童でも、前日まで台風直撃と言われていたのが快晴になったことがある。私は嵐の日にわざわざ用を作って出掛ける程の嵐好きなので微妙なのだが、どうやらかなりの晴れ男らしい。（すずき）

**●訂正とお詫び**

3月号22ページの「会議録」にある「第3回複合地区国際大会委員長連絡会議」の出席者の記載に誤りがありました。正しくは、秦従道、高田順一両2011～13年国際理事候補者です。お詫びして訂正致します。

## ライオン誌広告料金表

| 区分 | 種別／スペース | 金額 |
|---|---|---|
| 表紙２ | 4色／1ページ | ￥600,000 |
| 表紙３ | 4色／1ページ | ￥500,000 |
| 表紙４ | 4色／1ページ | ￥700,000 |
| 記事中 | 4色／1ページ | ￥480,000 |
| 記事中 | 1色／1ページ | ￥270,000 |
| 記事中 | 4色／3分の1ページ | ￥160,000 |
| 記事中 | 1色／3分の1ページ | ￥110,000 |
| ハガキ | 1色／1葉 | ￥700,000 |

※年間契約：年3回以上の出稿を条件に5～25%の割引制度があります

※会員割引：ライオンズクラブ会員は10%の特別割引があります（年間契約との併用可）

問い合わせ先：ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階
電話：03-3542-9571
ファクス：03-3546-2630
Eメール：office@thelion.jp

Official publication of Lions Clubs International

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages – English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indnesian and Thai.

**EXECUTIVE OFFICERS**
President Sid L. Scruggs III, 698 Azalea Drive, Vass, North Carolina, 28394, USA; Immediate Past President Eberhard J. Wirfs, Am Munsterer Wald 11, 65779 Kelkheim, Germany; First Vice President Dr. Wing-Kun Tam, Unit 1901-2, 19/F, Far East Finance Centre, 16 Harcourt Road, Hong Kong, China; Second Vice President Wayne A. Madden, PO Box 208, Auburn, Indiana 46706, USA.

**DORECTPRS**
**Second year directors**
Luis Dominguez, Mijas Pueblo, Spain; Gary B. D'Orazio, Idaho, United States; Yasumasa Furo, Dazaifu, Japan; K. P. A. Haroon, Cochin, India; Carlos A. Ibañez, Panama City, Panama; Ronald S. Johnson, Maine, United States; Byeong-Deok Kim, Seoul, Republic of Korea; Horst P. Kirchgatterer, Wels/Thalheim, Austria; Hamed Olugbenga Babajide Lawal, Ikorodu, Nigeria; Daniel A. O'Reilly, Illinois, United States; Richard Sawyer, Arizona, United States; Anne K. Smarsh, Kansas, United States; Jerry Smith, Ohio, United States; Michael S. So, Makati, Phillippines; Haynes H. Townsend, Georgia, United States; Joseph Young, Ontario, Canada.

**First year directors**
Yamandu P. Acosta, Alabama, United States; Douglas X. Alexander, New York, United States; Dr. Gary A. Anderson, Michigan, United States; Narendra Bhandari, Pune, India; Janez Bohorič, Kranj, Slovenia; James Cavallaro, Pennsylvania, United States; Ta-Lung Chiang, Taichung, MD 300 Taiwan; Per K. Christensen, Aalborg, Denmark; Edisson Karnopp, Santa Cruz do Sul, Brazil; Sang-Do Lee, Daejeon, Korea; Sonja Pulley, Oregon, United States; Krishna Reddy, Bangalore, India; Robert G. Smith, California, United States; Eugene M. Spiess, South Carolina, United States; Eddy Widjanarko, Surabaya, Indonesia; Seiki Yamaura, Tokyo, Japan; Gudrun Yngvadottir, Gardabaer, Iceland.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

**ライオン誌日本語版委員会**
国際理事　不老安正
国際理事　山浦晟暉
委員長　秋山詔樹（330複合地区）
編集長　小田邦雄（336複合地区）
委　員　後藤　忍（331複合地区）
委　員　種市一二（332複合地区）
委　員　林　静誠（333複合地区）
委　員　砂田繁雄（334複合地区）
委　員　竹本實生（335複合地区）
委　員　澁田繁晴（337複合地区）

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571（代）　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

## 編集室

# 私たちの『ライオン』誌

ライオン誌
日本語版委員
◉
砂田繁雄
（長野県・大町）

私は2004~06年、そして今年度とライオン誌日本語版委員を拝命し、『ライオン』誌の編集に参画させて頂いております。この任期中、一貫して多くの会員に愛され、一人でも多くの会員に読んで頂けるような『ライオン』誌をとの願いを込めて編集に携わってまいりました。

本誌は国際理事会の方針に沿って、その指導監督の下に発行されています。年度初めの委員会において確認するライオン誌日本語版委員会方針、更に年間の編集長方針の下で、八複合地区から推薦された委員8人、事務所スタッフが力を合わせ、多くの人たちの手を得て『ライオン』誌を発刊しております。

会員の皆様が本誌をどのように読み取っているか、その実態を把握することは、毎号の編集を行う上で非常に重要です。そこで、私が委員長を務めていた05年度にモニター制度を提案し、この時には実現出来ませんでしたが、その後08年度からこれを取り入れました。読者からのご意見、反応は本誌の誌面改善に大きな一石を投じました。更に本年度は読者サポーターと名称を変え、更に積極的なご協力をお願いしています。

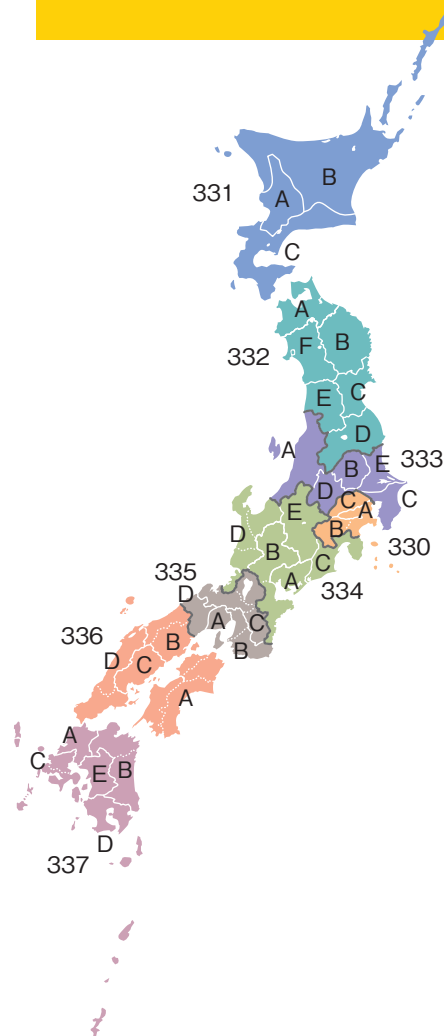
今年度委員会は「ライオン誌例会」の推進を重点項目としております。334-E地区（長野県）では丸山正芳地区ガバナーがいち早く取り入れ、地区内クラブに開催を呼び掛けてくださいました。他の地区でもライオン誌委員の働き掛けで普及しつつあり、また本誌「クラブ・リポート」や「ライオン誌例会のススメ」を見て開催したクラブも現れ、喜ばしく思います。今後こうした動きが加速されれば、クラブ・レベルで有益に活用され、しかも会員にとって親しみやすい、身近な『ライオン』誌へと大きく改革が進んでまいります。

ライオンズクラブの公式機関紙として、会員の皆さんには投稿や、ご意見、ご要望をお寄せ頂くなど積極的に参画して頂き、それぞれが「私の『ライオン』誌」を作って頂けるようお願い致します。

## 日本のライオンズ

2011.2.28　eMMR ServannA報告による

| 地区 | 都道府県 | クラブ数 | 会員数 | 男性会員 | 女性会員 | 会員数増減 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 330-A | 東京 | 200 | 5,138 | 4,461 | 677 | 4 |
| 330-B | 神奈川·山梨·東京 | 181 | 5,129 | 4,538 | 591 | 53 |
| 330-C | 埼玉 | 101 | 2,608 | 2,300 | 308 | -38 |
| 330 | 計 | 482 | 12,875 | 11,299 | 1,576 | 19 |
| 331-A | 北海道（道央） | 75 | 2,541 | 2,366 | 175 | -44 |
| 331-B | 北海道（道北·道東） | 91 | 2,570 | 2,459 | 111 | 29 |
| 331-C | 北海道（道南） | 56 | 1,868 | 1,680 | 188 | 50 |
| 331 | 計 | 222 | 6,979 | 6,505 | 474 | 35 |
| 332-A | 青森 | 66 | 1,783 | 1,636 | 147 | 24 |
| 332-B | 岩手 | 54 | 2,251 | 1,579 | 672 | 114 |
| 332-C | 宮城 | 77 | 1,501 | 1,316 | 185 | 77 |
| 332-D | 福島 | 77 | 2,066 | 1,860 | 206 | 51 |
| 332-E | 山形 | 58 | 1,858 | 1,671 | 187 | 11 |
| 332-F | 秋田 | 51 | 1,305 | 1,091 | 214 | -13 |
| 332 | 計 | 383 | 10,764 | 9,153 | 1,611 | 264 |
| 333-A | 新潟 | 78 | 2,976 | 2,651 | 325 | 169 |
| 333-B | 栃木 | 58 | 1,684 | 1,216 | 468 | 95 |
| 333-C | 千葉 | 137 | 3,633 | 3,028 | 605 | 122 |
| 333-D | 群馬 | 53 | 2,181 | 1,775 | 406 | 125 |
| 333-E | 茨城 | 80 | 2,919 | 2,612 | 307 | 33 |
| 333 | 計 | 406 | 13,393 | 11,282 | 2,111 | 544 |
| 334-A | 愛知 | 122 | 5,443 | 4,928 | 515 | 107 |
| 334-B | 岐阜·三重 | 83 | 3,675 | 3,376 | 299 | -15 |
| 334-C | 静岡 | 84 | 3,248 | 3,129 | 119 | 49 |
| 334-D | 富山·石川·福井 | 98 | 4,012 | 3,765 | 247 | 38 |
| 334-E | 長野 | 53 | 2,098 | 1,919 | 179 | 35 |
| 334 | 計 | 440 | 18,476 | 17,117 | 1,359 | 214 |
| 335-A | 兵庫（東） | 100 | 2,544 | 2,196 | 348 | -26 |
| 335-B | 大阪·和歌山 | 194 | 5,989 | 5,314 | 675 | 91 |
| 335-C | 滋賀·京都·奈良 | 121 | 4,080 | 3,770 | 310 | 55 |
| 335-D | 兵庫（西） | 68 | 2,091 | 1,879 | 212 | -13 |
| 335 | 計 | 483 | 14,704 | 13,159 | 1,545 | 107 |
| 336-A | 徳島·高知·香川·愛媛 | 152 | 5,815 | 5,168 | 647 | 73 |
| 336-B | 鳥取·岡山 | 97 | 3,143 | 2,864 | 279 | -15 |
| 336-C | 広島 | 102 | 3,619 | 3,423 | 196 | 32 |
| 336-D | 島根·山口 | 102 | 3,356 | 3,123 | 233 | 98 |
| 336 | 計 | 453 | 15,933 | 14,578 | 1,355 | 188 |
| 337-A | 福岡·長崎 | 117 | 4,601 | 4,084 | 517 | 132 |
| 337-B | 大分·宮崎 | 75 | 2,382 | 2,225 | 157 | 62 |
| 337-C | 佐賀·長崎 | 84 | 3,140 | 2,664 | 476 | 163 |
| 337-D | 鹿児島·沖縄 | 81 | 2,479 | 2,265 | 214 | 22 |
| 337-E | 熊本 | 56 | 1,609 | 1,466 | 143 | 0 |
| 337 | 計 | 413 | 14,211 | 12,704 | 1,507 | 379 |
| 総計 | | 3,282 | 107,335 | 95,797 | 11,538 | 1,750 |
| 世界のライオンズの | | 7.2% | 8.0% | | | |

# 日本ライオンズクラブ分布図

## 世界のライオンズ

2011.2.28　国際協会集計

| | |
|---|---|
| ライオンズ国または領域 | 206 |
| 世界のクラブ数 | 45,867 |
| 世界の会員数 | 1,347,322 |
| 期首からの増減 | 9,208 |

| 国 | クラブ数 | 会員数 | 期首からの増減 |
|---|---|---|---|
| アメリカ | 12,532 | 361,604 | -7,420 |
| インド | 5,820 | 204,407 | 9,558 |
| 韓国 | 2,090 | 86,449 | 3,185 |

ライオン誌4月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費76円
2011年(平成23年)3月20日発行　毎月1回20日発行　第53巻第10号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 Tel 03-3542-9571
印刷所　共同印刷株式会社